

教育委員会の所管事務に係る 点検・評価報告書

(令和6年度事業)

令和7年12月

桑折町教育委員会

目次

第1 点検及び評価の概要	
1 はじめに	1
2 評価の進め方	1
(1) 点検及び評価の対象	
(2) 点検及び評価の方法	
3 外部有識者の知見の活用	1
4 報告及び公表	2
第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況	
○ 令和6年度桑折町教育委員会重点	3
○ 評価	
・ こども教育係	6
1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育	8
2 一人一人を大切にする温かい教育	21
3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成	25
4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続	32
5 家庭への手厚い子育て支援	35
6 小中学校のあり方の検討	40
7 教育施設・設備の充実	43
・ 生涯学習係	46
1 生涯学習活動の推進	47
2 社会体育・生涯スポーツの推進	58
3 歴史まちづくりの推進	63
第3 教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況	
○ 学校経営評価報告書（小学校4校、中学校1校）	68
○ 学校経営自己評価票（小学校4校、中学校1校）	88
第4 教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況	
○ こども園経営評価報告書	98
○ 経営自己評価票（幼稚園1園、保育所1所）	101
第5 第三者評価委員会による評価	
○ 会議開催経過と主な内容	105
○ 評価に対する評価委員からの意見等	105
第6 参考資料	
○ 桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者委員会設置に関する規則	
○ 桑折町教育大綱	
○ 桑折町の15歳のめざす姿	

第1 点検及び評価の概要

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することとされています。

桑折町教育委員会では、同法の規定及び桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則に基づき、教育委員会の重点施策について点検・評価を実施するものです。

[抜粋] 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 評価の進め方

(1) 点検及び評価の対象

- ① 「令和6年度桑折町教育委員会重点」に掲げた取組みに関する自己評価
- ② 町立小中学校の学校経営評価
- ③ 町こども園の園経営評価

(2) 点検及び評価の方法

(1)の①については、それぞれの担当者による自己評価(*)と教育委員評価、(1)の②・③については小中学校長・こども園長、保育所長による自己評価を行い、これに対し、学識経験を有する者による「第三者評価」を行います。

評定については、4段階評価（A：大変良い、B：良い、C：やや悪い、D：悪い）で行います。

*生涯学習・スポーツ関係は社会教育委員、文化財関係は文化財保護審議委員による評価も付す。

3 外部有識者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、外部有識者による知見を活用するため「第三者評価委員会」

を設置し、教育施策の一層の改善・充実を図ります。

[第三者評価委員]

- 岡 崎 一 也 （元 伊達市立梁川小学校長・伊達地区小中学校長協議会長）
- 佐久間敏彦 （現 福島市生涯学習課生涯学習指導員・元 福島県教育庁県北教育
事務所社会教育課長）
- 中 田 巧 （前 町 P T A 連絡協議会副会長・醸芳中学校 PTA 副会長）

4 報告及び公表

点検及び評価結果をまとめた報告書は議会へ提出するとともに、町公式ホームページへの掲載により公表します。

令和6年度 桑折町教育委員会重点

I 基本目標

桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」に基づき、町の将来像「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

II 基本方針

1 子どもを大切にすまちづくり

みんなで子育て・教育に携わり、「子育てするなら桑折町」「桑折ならではの質の高い教育」と評価されるような乳幼児保育・教育や学校教育の推進を通して、子育て支援の充実と「桑折町の15歳のめざす姿（人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子）」の実現に努める。

2 健康長寿で元気なまちづくり

生涯学習・生涯スポーツ事業の推進を通して、みんなが生きがいをもち、心身ともに健康で生き生きと暮らせるまちづくりに貢献する。

3 交流で絆を育むまちづくり

歴史まちづくりの推進を通して、みんなが互いに協力し、町の魅力や元気を発信しながら、交流の輪が広がるまちづくりに貢献する。

III 重点施策

1 乳幼児保育と教育の充実

(1) 待機児童ゼロの堅持

- ① 認定こども園の開設に伴う既存保育所の運営移行
- ② 保育士や支援員の確保

(2) 幼児教育の質の向上と小中学校への接続

- ① 環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実
- ② 保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施（架け橋期カリキュラムの検討）
- ③ 特別支援教育の充実：ことばの教室・就学相談会

(3) 家庭への手厚い子育て支援

- ① 幼稚園給食実施の充実
- ② 幼稚園家庭教育講演会の開催

2 学校教育の推進

(1) 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育の推進

- ① 脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践、桑折学習塾参加奨励
- ② 運動身体づくりプログラム、運動継続の各校（園）一実践
- ③ 不登校・いじめ対策

(2) 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

- ① 英語指導助手・指導協力員の活用、英検受験奨励・費用助成
- ② 1人1台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、ICT支援員配置・活用と教職員研修、ICT教育環境の整備と充実
- ③ 持続可能な開発のための教育、防災・安全教育

(3) 一人一人を大切にす温かい教育

- ① 特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用
- ② 不登校が起きない学級・学校づくり、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、教育支援センター等による教育機会確保と学校復帰支援

(4) 家庭への手厚い子育て支援

- ① 学校給食費費用全額助成

(5) 教育施設・設備の充実

- ① 施設・設備の計画的な維持管理・整備

(6) 小中学校の在り方の検討

- ① 小学校統合についての様々な観点からの検討
- ② 小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入などの検討

3 生涯学習の推進

(1) 生涯学習活動の推進

- ① 生涯学習推進基本計画（第3次）の推進
- ② ライフステージに応じた多様な学習機会の提供

(2) 公民館施設等の管理運営

- ① 各施設の計画的な維持補修と適切な管理運営

(3) 芸術・文化の振興

- ① 町文化団体連絡協議会及び加盟団体等の活動奨励・支援

(4) 多世代交流の推進

- ① 地域学校協働活動事業
- ② 学校部活動地域移行に向けた検討

(5) 多文化交流の推進

- ① 多文化に関する学習機会の提供（公民館講座等）

4 生涯スポーツの推進

(1) 健康・体力づくりを目指す生涯スポーツの推進

- ① 健康・体力づくりのための事業展開

(2) スポーツ団体等の支援

- ① 各種スポーツ団体への活動支援

(3) 体育施設等の充実

- ① 体育施設の経年劣化等に伴う計画的な維持補修と適切な管理運営

5 歴史まちづくりの推進

(1) 歴史的風致維持向上計画の推進

- ① 歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進
- ② 歴史案内人育成と体制の充実

(2) 文化財の保護・活用の推進

- ① 歴史と文化を活かした魅力体感事業の展開

(3) 桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し

- ① 資料や美術品の保管・公開の検討
- ② 歴史探訪・観光拠点機能の充実

第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

項 目	評 価			
	自己 評価	教育委員 評価	社会教育委員 評価 文化財保護審 議委員評価	第三者評価 委員評価
1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育				
(1) 〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。	B	B	-	B
(2) 〔体力向上〕子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。	B	B	-	B
(3) 〔心の教育〕子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。	B	B	-	B
2 一人一人を大切にする温かい教育				
(1) 〔特別支援教育〕特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。	A	A	-	A
(2) 〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。	B	B	-	B
3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成				
(1) 〔英語教育〕子どもたちに英語の4つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。	B	B	-	B
(2) 〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。	B	B	-	B
(3) 〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。	B	B	-	B

項 目	評 価			
	自己 評価	教育委員 評価	社会教育委員 評価 文化財保護審 議委員評価	第三者評価 委員評価
4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続				
(1) 〔保育改善・充実〕 幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。	B	B	-	B
(2) 〔小中学校との連携〕 幼稚園教育と小中学校教育との円滑な接続を図ることにより、子どもたちの成長が効果的に積み重ねられることをめざす。	B	B	-	B
5 家庭への手厚い子育て支援				
(1) 〔経済的支援〕 「待機児童ゼロ」を堅持するとともに、子育てに係る家庭の経済的負担を軽減することにより、すべての子どもが平等に充実した保育・教育を受けられることをめざす。	B	B	-	B
(2) 〔家庭教育支援〕 家庭の教育力向上に向けた支援を行うことにより、それぞれの家庭で子どもたちが健やかに成長することをめざす。	B	B	-	A
6 小中学校のあり方の検討				
(1) 〔少子化への対応〕 小学校が小規模化している現状を踏まえ、今後のあるべき姿を検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B
(2) 〔学校運営の改善〕 今後求められる教育を実施していくために必要な学校運営のあり方について検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B
7 教育施設・設備の充実				
(1) 〔学校施設〕 安全・安心で子どもたちの学びを支える良好な教育環境の維持・向上の方策を確立し、その実現をめざす。	B	B	-	B
(2) 〔給食センター〕 安全・安心でおいしい給食を安定供給するとともに、食育および地産地消の拠点としての機能を果たす施設としてのあり方を検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	<p>(1) 〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。</p> <p>① 脳科学研究に基づく生活習慣改善（生活の基盤づくり） ② 読み・書き・計算徹底反復（学習の基盤づくり） ③ 探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践 ④ 家読奨励 ⑤ 桑折学習塾</p>																																										
重点項目と評価	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>① 川島隆太先生の著書の配付及び家庭教育講演会開催</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 各学年での生活習慣の指導（学級活動）</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 家庭教育学級の実施、「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>① 町内小学校の共通実践（目標達成に向けた集中実施期間設定、チェックテスト）</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 読み・書き・計算徹底反復研修会の実施</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>① 町内連携授業研究会</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 秋田「探究型授業」研修</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 県教委「学びのスタンダード」の活用</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ 学力の実態把握と分析、対策の立案と実践</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>① 家読運動とりくみコンクールの実施</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 幼稚園、絵本コーナーの充実と活用、絵本の貸し出し、家庭での読み聞かせの奨励</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>① 小学生対象…算数（算数ジュニアオリンピックへの支援を含む）・国語（年8回）</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 中学生対象…数学・英語（年16回）</td> <td>b</td> </tr> </table>	①	① 川島隆太先生の著書の配付及び家庭教育講演会開催	b		② 各学年での生活習慣の指導（学級活動）	b		③ 家庭教育学級の実施、「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用	a	②	① 町内小学校の共通実践（目標達成に向けた集中実施期間設定、チェックテスト）	a		② 読み・書き・計算徹底反復研修会の実施	a	③	① 町内連携授業研究会	a		② 秋田「探究型授業」研修	a		③ 県教委「学びのスタンダード」の活用	b		④ 学力の実態把握と分析、対策の立案と実践	b	④	① 家読運動とりくみコンクールの実施	b		② 学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実	a		③ 幼稚園、絵本コーナーの充実と活用、絵本の貸し出し、家庭での読み聞かせの奨励	b	⑤	① 小学生対象…算数（算数ジュニアオリンピックへの支援を含む）・国語（年8回）	b		② 中学生対象…数学・英語（年16回）	b
①	① 川島隆太先生の著書の配付及び家庭教育講演会開催	b																																									
	② 各学年での生活習慣の指導（学級活動）	b																																									
	③ 家庭教育学級の実施、「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用	a																																									
②	① 町内小学校の共通実践（目標達成に向けた集中実施期間設定、チェックテスト）	a																																									
	② 読み・書き・計算徹底反復研修会の実施	a																																									
③	① 町内連携授業研究会	a																																									
	② 秋田「探究型授業」研修	a																																									
	③ 県教委「学びのスタンダード」の活用	b																																									
	④ 学力の実態把握と分析、対策の立案と実践	b																																									
④	① 家読運動とりくみコンクールの実施	b																																									
	② 学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実	a																																									
	③ 幼稚園、絵本コーナーの充実と活用、絵本の貸し出し、家庭での読み聞かせの奨励	b																																									
⑤	① 小学生対象…算数（算数ジュニアオリンピックへの支援を含む）・国語（年8回）	b																																									
	② 中学生対象…数学・英語（年16回）	b																																									
具体的な取組	<p>①</p> <p>① ・川島隆太氏の著書の配付（4月）及び釧路幼稚園保護者を対象に東北大学加齢研究所准教授浩平氏による家庭教育講演会「健康な生活習慣の大切さ」の開催（4月）</p> <p>② ・各小・中学校における学級活動での生活習慣の指導（4月）</p> <p>②</p> <p>① ・重点実施期間における町教育委員会視察訪問の実施 ：6月・9月 ・チェックテスト（3回）の実施と分析：7月・11月・2月</p>																																										

具体的な取組	<p>② ・教職員研修会における徹底反復マニュアル及び徹底反復実践事例集（DVD）を活用した研修の実施</p> <p>・陰山ラボ代表陰山英男氏の指導による授業研究会の実施（10月伊達崎小）</p>			
	<p>③ ① ・各校の各校一指定授業（ICT活用授業研究会、徹底反復の効果を活かす授業研究会、秋田探究型授業研究会を含む）及び各学校ごとの授業研究会の実施</p> <p>② ・秋田大学名誉教授阿部昇氏の指導による探究型授業研究会の実施（10月 釧芳中）</p> <p>・東成瀬村の小・中学校への研修視察実施</p> <p>③ ・授業研究会と各種研修による授業改善</p> <p>・「桑折町小学校・学びのスタンダード」（下敷き）の活用。</p> <p>④ ・全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査そしてNRT学力検査結果の分析と対策の検討</p>			
	<p>④ ① ・毎月23日を「家読の日」としての家読とりくみコンクールの実施</p>			
	<p>② ・学校司書を活用した図書の整理や読書活動の促進</p>			
	<p>③ 絵本を精選し絵本の部屋や各クラスの絵本棚の充実に努める。</p> <p>毎週1回、全幼児に絵本の貸し出しを実施する。</p> <p>家庭での読み聞かせの奨励。（絵本の読み聞かせカード）</p>			
<p>⑤ ① ・4小学校において、国語と算数の実施。</p>				
<p>② ・中学生に対して数学・英語の実施。</p>				
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	② ①	チェックテスト：百ます計算	低・中学年：2分 高学年：1分30秒以内 百ます：50%	合格者：162名、35.3% （4～6学年は、50%超え）
		チェックテスト：漢字	学年漢字習得率 8割 漢字：6/6学年	漢字平均正答率 全学年86.8% 8割達成：5学年
③	全国学力・学習状況調査及びふくしま学力調査 県平均を超える割合	11/15教科	9/14教科	

数値目標と 数値実績	④	①	個人賞・家族賞・学級賞	個人賞：90% 家族賞：80% 学級賞：80%	個人賞：81.7% 家族賞：71.9% 学級賞：52.9%
		③	読み聞かせカード取り組み率	90% (前年度実績)	90%
	⑤	①	桑折学習塾（小学校）参加率	2割の参加	醸芳小：9% 睦合小：21% 半田醸芳小：19% 伊達崎小：36%
		②	桑折学習塾（中学校）参加率	3年生：50% 1・2年生：30%	3年生：50% 2年生：20% 1年生：29%
	成果・評価	①	①	・生徒が配布された書籍を読み込むことや保護者が幼少期からよりよい生活習慣を身に付ける大切さを学ぶことにより、脳の発達へ多大な影響を及ぼすことに、関心が高まった。	
		②	・第1回園長・校長会議で紹介した視聴覚教材を活用するなどして、生活習慣の大切さについて、各学校で授業を行い、児童生徒の意識を高めた。		
②		①	<p>・重点実施期間はどの小学校も、管理職が全担任の活動を参観し、指導の充実が図られた。</p> <p>・重点実施期間において、町教委及び各小学校の管理職が視察訪問をすることにより、各校の取組のレベルアップを図った。</p> <p>・チェックテストを分析したところ、百ます計算は全児童の35.3%が合格し、漢字は全学年で86.8%を達成することができた。昨年度と同程度の合格率であった。</p>		
	②	・4月の各校での研修会時に読み・書き・計算について、マニュアルを確認するとともに、実際に体験する研修を通して、指導力の向上を図ることができた。			
	③	<p>・阿部昇先生など外部講師を招聘した秋田探究型授業研究会、ICT活用授業研究会、徹底反復の効果を活かす授業研究会を始め、各校の各校一指定授業及び各学校ごとの授業研究会を実施し、新しい知見を得るとともに、指導力の向上を図った。</p> <p>・11月に東成瀬村の小・中学校への研修視察を各校教頭、研修主任5名で実施し、その視察から、授業づくりだけでなく授業研究会の進め方、そして掲示物等の環境整備についても有効な知見を得てきた。</p>			

<p>成果・評価</p>	<p>③ ・ふくしまの「授業スタンダード」を踏まえて、授業研究会などにより授業改善に努めた。また、「桑折町小学校・学びのスタンダード」を活用して学習のしかたについて指導した。</p> <hr/> <p>④ ・全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査そしてNRT学力検査の結果を分析し、授業改善の方向性について示すとともに、各校において対策を考案・実施した。また、Hyper-QUテストとNRT学力検査のクロス集計を活用して学級づくりにいかした。</p> <hr/> <p>④ ① ・毎月23日を「家読の日」とし、小学校は4月から1月までの10回をコンクール対象とした。 ・目標の数値には届かなかったが、個人賞、家族賞、学級賞いずれにおいても昨年度の数値を上回ることができた。 ・低学年から高学年に上がるにつれて、実施率が低下する傾向がある。</p> <hr/> <p>② ・学校司書を中学校に配置するとともに、年間11回ずつ小学校への巡回訪問を実施し、図書の整理や読書活動を促進した。</p> <hr/> <p>③ ・幼児の興味や好奇心を満たすような絵本の提示や園における読み聞かせ活動の充実(ファミリー文庫やファミリーティーチャーの活用を含む)に努めたことで絵本に親しむ子どもの姿に繋がった。 ・毎週1回、全幼児に絵本を貸し出しており、楽しんで読み聞かせをする家庭が増えている。 ・家庭における読み聞かせの推奨(絵本の読み聞かせカード配布、回収、お勧め絵本の紹介)に努めたところ、家庭からも「お勧めの絵本」や「家庭での取組の様子」の紹介が増えてきた。</p> <hr/> <p>⑤ ① ・4小学校において、国語と算数を1学期と2学期に2回実施した。(計8回) ・指導主事、教員OBとともに、国語科、算数科を中心とした学習教材を準備して実施した。参加率は学校によって差が見られた。</p> <hr/> <p>② ・中学校3年生は、名城塾が講師を務め、標準コース・発展コースに分かれて6月から12月までの計16回実施した。 ・中学1、2年生は、指導主事、教員OB、福島大学学生(4名)等が講師を務め、6月から3月までの計16回開催した。</p>
<p>改善・充実策</p>	<p>① ② ・健全な生活習慣の指導について、共通実践が図られていない学校があるので、個別の働きかけを強める。</p> <hr/> <p>② ① ・集中力や高度な基礎学力を身に付けることなど、徹底反復学習のねらいや意義の共有化を図り、さらに指導力を向上させていく必要がある。</p>

改善・充実策	<p>④ ① ・家読運動とりくみコンクールも学校・学級により温度差がある。多忙化の軽減を図りながら、読書の意義を確認して実施率を上げていきたい。</p> <hr/> <p>③ 家庭における読み聞かせの推奨は継続的な意欲付けが課題である。</p> <hr/> <p>⑤ ① ・参加率が低い学校について、校長会等で働きかけていきたい。</p> <hr/> <p>② ・次年度も、中学3年生は12月までの16回とする。保護者への周知・PRの方法を工夫するなどして、参加生徒を増やしたい。</p>
担当者自己評価	B 良 い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	<p>(2) 〔体力向上〕子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。</p> <p>① 「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進</p> <p>② 給食を活用した食育</p> <p>③ 運動身体づくりプログラム</p> <p>④ 運動継続の各校（園）一実践</p> <p>⑤ 地域スポーツとの連携</p>																																	
重点項目と評価	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>家庭と連携した基本的な生活習慣の定着を図る取組</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">②</td> <td>① 安全・安心な学校給食の提供</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>② 町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する情報の提供</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>③ 栄養教諭と連携した「食育授業」の計画的・継続的な実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">③</td> <td>① 幼児期運動指針・運動身体づくりプログラムの継続的・効果的実践</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>② 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実、外部講師による運動遊び、ダンス教室実施</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>③ 体力向上授業研究会の開催</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">④</td> <td>① 体力テスト結果に基づく課題（運動能力・肥満児出現率）の明確化</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>② 業間運動や昼休み等の時間の活用（長距離走の奨励）</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>③ 中学校部活動の充実・適正化</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>④ 自力登校等の日常的な生活運動の呼びかけ</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑤</td> <td>① 町小学生陸上競技大会参加の奨励</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>② スポーツ少年団などの地域スポーツクラブとの連携</td> <td>b</td> </tr> </table>	①	家庭と連携した基本的な生活習慣の定着を図る取組	b	②	① 安全・安心な学校給食の提供	b	② 町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する情報の提供	a	③ 栄養教諭と連携した「食育授業」の計画的・継続的な実施		④ 家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ	b	③	① 幼児期運動指針・運動身体づくりプログラムの継続的・効果的実践	b	② 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実、外部講師による運動遊び、ダンス教室実施	a	③ 体力向上授業研究会の開催	b	④	① 体力テスト結果に基づく課題（運動能力・肥満児出現率）の明確化	a	② 業間運動や昼休み等の時間の活用（長距離走の奨励）	b	③ 中学校部活動の充実・適正化	b	④ 自力登校等の日常的な生活運動の呼びかけ	b	⑤	① 町小学生陸上競技大会参加の奨励	b	② スポーツ少年団などの地域スポーツクラブとの連携	b
①	家庭と連携した基本的な生活習慣の定着を図る取組	b																																
②	① 安全・安心な学校給食の提供	b																																
	② 町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する情報の提供	a																																
	③ 栄養教諭と連携した「食育授業」の計画的・継続的な実施																																	
	④ 家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ	b																																
③	① 幼児期運動指針・運動身体づくりプログラムの継続的・効果的実践	b																																
	② 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実、外部講師による運動遊び、ダンス教室実施	a																																
	③ 体力向上授業研究会の開催	b																																
④	① 体力テスト結果に基づく課題（運動能力・肥満児出現率）の明確化	a																																
	② 業間運動や昼休み等の時間の活用（長距離走の奨励）	b																																
	③ 中学校部活動の充実・適正化	b																																
	④ 自力登校等の日常的な生活運動の呼びかけ	b																																
⑤	① 町小学生陸上競技大会参加の奨励	b																																
	② スポーツ少年団などの地域スポーツクラブとの連携	b																																
具体的な取組	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で県教委主催の「朝食について見直そう週間運動」の実施 ・園だよりや保健だよりによる取組の推進（幼稚園） <p>②</p> <table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>・安全・安心な学校給食の提供（安定的な食材の確保）</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>・町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する定期的な情報の提供</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>・各学校の養護教諭と栄養教諭との連携を図った「食育授業」の計画的・継続的な実施</td> </tr> </table>	①	・安全・安心な学校給食の提供（安定的な食材の確保）	②	・町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する定期的な情報の提供	③	・各学校の養護教諭と栄養教諭との連携を図った「食育授業」の計画的・継続的な実施																											
①	・安全・安心な学校給食の提供（安定的な食材の確保）																																	
②	・町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する定期的な情報の提供																																	
③	・各学校の養護教諭と栄養教諭との連携を図った「食育授業」の計画的・継続的な実施																																	

具体的な取組	④ ・各校の養護教諭から「保健だより」「食育だより」の発行 ・朝食アンケートによる取組推進（幼稚園） ・家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ（幼稚園）			
	③ ① ・桑折町体力向上推進委員会で、運動身体づくりプログラムの重要性を確認 ・幼稚園における戸外遊びの励行：毎日1回（60分以上目安） ・幼児期運動指針を意識した取組の推進（1学年1実践、1学級1実践への取組）			
	② ・幼稚園では外部講師によるダンス教室、元気っこ運動教室、サッカー教室を実施。小・中学校では休み時間の外遊びを奨励。			
	③ ・外部講師を招聘し、町の体力の課題（スピード・全身持久力・筋持久力）に応じた動きづくりの指導法研修会を半田醸芳小で実施。			
	④ ① ・新体力テストの結果の分析 ② ・各学校における1校1実践 ③ ・体育・文化活動事業補助金交付 ④ ・自家用車で送られて来る児童・生徒の減少に向けてPTA総会等で自力登校の推奨			
数値目標と数値実績	⑤ ① ・各小学校において、福島大学トラッククラブ等を講師とした陸上教室の実施および大会参加に向けた意識醸成			
	② 総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」企画のイベントの参加			
		項目	数値目標	数値実績
	①	基本的な生活習慣への指導についてのアンケート	適切だと思う保護者が70%以上	98.50%
	② ④	『朝食について見直そう』アンケート(朝食摂取児)	95%以上	1回目 100% 2回目 97.9%
③ ①	体を動かす遊びを好んでいるかのアンケート	好んでいると思う保護者が70%以上	93%	
④ ①	体力テストの4種別（小5・中2の男・女）の合計得点	全科目県平均超 2/4種別	県平均超 2/4種別	

成果・評価	①	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で「早寝早起き朝ご飯」など基本的な生活習慣の定着を推進し、朝食の摂取率も高まっている。 ・家庭教育講演会や園便り等による啓蒙により、家庭との連携を図った。榊先生による講演会では保護者から参考になったとの声が聞かれた。(幼稚園)
	② ①	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰等の影響による食材等の値上げが顕著となったが、地方創生臨時交付金を活用し、予算補正しながら、栄養価を下げることなく安全・安心な学校給食を提供できた。また、可能な限り町産・県産食材の確保に努めながら、安定的に給食を提供できた。さらに、「町産食材活用学校給食事業（こおりっ子給食）：7月・11月」や「ふくしま旬の食材等活用推進事業：9月・12月」により、町産・県産食材をふんだんに活用した給食提供事業に取り組み、子どもたちの地元農業への理解や郷土愛を育む機会を設けることができた。
	② ②	<ul style="list-style-type: none"> ・町ホームページに、毎日の給食の写真等と毎月の「献立表」「給食だより」を掲載することで、子どもたちやその家族等に対して食育に関する情報を提供し、関心を促すことができた。
	② ③	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による「食育授業」の計画的・継続的な実施により、子どもたちの食に対する興味・関心を高めることができた。また、毎月の給食残菜の状況を資料にまとめ各学校に情報提供することで、教員等も給食指導に対して積極的になり、残菜が減った学校もみられた。
	② ④	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に「保健だより」「食育だより」を発行し、家庭への啓蒙を図っている。 ・朝食摂取率は、ほぼ100%だが汁物、野菜の摂取率は約50%である。(幼稚園)
	③ ①	<ul style="list-style-type: none"> ・運動身体づくりの自校化に取り組んでいる学校もある。 ・幼児の発達状況や興味・関心に基づき、環境構成の工夫や教師の援助に努めた。保護者のアンケートで「体を動かすことを喜んでいる」が9割だったことから成果に繋がっていると考えられる。(幼稚園)
③ ②	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による「ストリートダンス」や「元気っこ運動教室」「サッカー教室」の経験が、その後の遊びや教師の指導力の向上に繋がった。 	

<p>成果・評価</p>	<p>③ ・藤田病院理学療法士を講師に招聘し、指導法研修会を実施した。児童の体力の推移や現状、体力低下の要因と対応策について研修を行った。また、授業に生かせる運動例や動きづくりについて実技研修も行い、本町の課題に特化した研修を行うことができた。</p> <p>④ ① ・第2回桑折町体力向上推進委員会で、体力・運動テストの分析を行った。全科目県平均超2／4種別を目標としたが、中学2年男女が達成した。課題をもとに対策を話し合い、新年度の「桑折町体力向上プラン」を策定した。</p> <p>② ・各校ごとに工夫を凝らし、学校ごとに課題に合った実践がみられた。（朝マラソン・業間マラソン・部活動対抗駅伝など）</p> <p>③ ・大会参加経費や用具購入に充ててもらうことにより、生徒が部活動に専念できる環境づくりができた。</p> <p>④ ・各小・中学校で家庭に呼びかけた。</p> <p>⑤ ① ・小学生陸上競技大会は、令和4年度から運営主体を学校から町教委（生涯学習係）に移行し、社会体育活動として実施している。各校で参加を呼びかけ、小学生全体の71.8%が大会に参加し、好記録が生まれている。</p> <p>② ・キッズ教室の子どもの参加人数は594人、バレーボール教室については、1,452人が参加した。</p>
<p>改善・充実策</p>	<p>① ① 家庭と連携した基本的な生活習慣の定着に向け、今後も、育てていきたい習慣への理解を深め、家庭でも実践してもらえるための情報発信の工夫が必要である。（幼稚園）</p> <p>② ① ・物価高騰等により、直接、食材等の値上げに影響が出てきているが、しっかりと予算を確保し、町産・県産食材を使用しながら安全に安心できる給食を安定して提供していく。</p> <p>② ・引き続き町ホームページなどを活用し、子どもたちの成長のために有益な食育情報を提供していく。</p> <p>④ ・お便りだけでなく、PTA総会や懇談会などでも積極的に呼びかけるなど、PTAとの連携も考えていく。</p> <p>・朝食での汁物、野菜の摂取率は約50%である。食事内容を意識した取組みも必要である。（幼稚園）</p> <p>③ ① ・苦手意識が強く取り組もうとしない幼児へのかかわりでは、その子が興味をもつ遊びや運動を見つけ、最初の一步を優しくサポートし、小さな成功を積み重ねていく。（幼稚園）</p> <p>③ ・県北教育事務所指導主事等を講師に、全県での課題や対策についてもご指導をいただく機会が必要である。</p>

改善・充実策	④ ① ・肥満傾向は体力合計点を下げる原因になっていると考え、それは運動習慣、食生活、メディア視聴なども関わっているので、対策を講じていく必要がある。
	⑤ ① ・児童に積極的な参加を呼びかけていく。
担当者自己評価	B 良 い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	<p>(3) 「心の教育」子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。</p> <p>① 不登校・いじめ対策 ② 規律・礼節の重視 ③ 体験活動・平和学習・キャリア教育の充実 ④ ふるさと教育（西山城見学など）の拡充</p>	
重点項目と評価	<p>① 不登校対策会議・いじめ問題対策連絡協議会等による連携強化・組織的対応</p> <p>② ① 道徳授業の改善・充実 ② あいさつ運動の推進 ③ 生活のきまりの指導 ④ 情報モラル教育の実施 ⑤ P T A ・青少年育成町民会議との連携</p> <p>③ ① 体験活動や鑑賞教室の実施 ② 被爆地に学ぶ平和学習 ③ キャリア教育の充実</p> <p>④ ① ふるさとの自然・文化・歴史等について「見る・知る・学ぶ」学習機会の拡充 ② 小学校西山城跡見学学習の実施 ③ 地域素材や地域人材バンクの効果的な活用</p>	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>b</p>
具体的な取組	<p>① ・不登校対策会議及びいじめ問題対策連絡協議会の開催</p> <p>② ① ・各小・中学校で授業参観における道徳科授業の公開 ② ・児童会や生徒会を中心とした取組 ③ ・学級活動、道徳での指導 ④ ・I C T支援員の活用 ⑤ ・PTA総会等で会員へ呼びかけ</p> <p>③ ① ・校外学習、総合的な学習の時間、土曜学習及び小学1～4年生を対象とした演劇鑑賞教室 ・幼稚園において、音楽鑑賞会、ファミリーコンサートの実施 ② ・次代を担う子どもたちが平和の意義を考え知見を広めるため、各校の小学6年生代表5名を広島平和記念式典に派遣 ③ ・「キャリアパスポート」小学1年生へ配付し、各校においてキャリア教育に活用（中学卒業まで活用）。</p> <p>④ ① ・各小・中学校における学習取組の実施 ② ・小学校における西山城跡見学学習の実施 ③ ・地域学校協同活動本部事業の活用</p>	

数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	③ ①	鑑賞会開催回数	2回	ファミリーコンサート 1回 音楽鑑賞 1回
	④ ③	お話し会や野菜の植え付け・収穫体験実施回数	お話し会 3回（学年ごと） 植付・収穫体験 各1回	お話し会 3回（学年ごと） 植付・収穫体験 各1回
成果・評価	①	<p>・5月に拡大生徒指導委員会として、各小・中学校長、生徒指導主事、養護教諭、中学校の学年主任が参加し、不登校対策会議を開催し、不登校傾向の児童生徒の状況とその対策について共通理解を図った。</p> <p>・6月にはいじめ問題対策連絡協議会を開催した。各機関が連携を図ることにより、いじめ見逃しゼロという考えを共有し、早期発見・早期対応を心がけた。</p>		
	② ①	<p>・各小・中学校で授業参観に道徳科の授業を公開する機会を設け、道徳科への保護者の関心を高めた。また、考え議論する道徳になるように、多面・多角的に考えることができる発問を工夫するよう授業研究会等で指導した。</p>		
	④	<p>・中学校の技術科や小学校の総合学習で、情報モラル、情報リテラシーについて、指導を行いSNS、インターネットにかかわる危険性やモラルについて指導を行った。</p> <p>・今のところ、タブレット端末機の持ち帰り等でトラブルはないが、正しい使い方については今後も指導を継続する。</p>		
	③ ①	<p>・児童たちは劇団芸優座による演劇を鑑賞し、間近で見る生の演技の迫力に圧倒されながら、登場人物がやさしい気持ちや友情の大切さを知り心を入れ替えるという物語に関心を寄せた、貴重な機会となった。</p> <p>・幼稚園において実施したファミリーコンサートでは民族歌舞団「ほうねん座」のステージを、音楽鑑賞会にはマリimba、フルート奏者を招き、鑑賞会を実施した。本物の演奏に触れる体験は、子ども達の感性の育ちに繋がったと思われる。</p>		

<p>成果・評価</p>	<p>② ・式典の参加とともに、原爆資料館、原爆ドーム等の広島訪問は、平和の尊さとその意義を多くの人に伝えることの大切さを児童の心に深く刻んだ大変価値のある体験となった。帰町後は、各校で意見発表を行い、年度末に事務局で事業報告書をまとめ小学5・6年生に配付した。派遣事業の成果をに周知することで、次年度の取組みへ繋いだ。</p> <p>④ ① ・各小・中学校において、総合的な学習の時間のカリキュラムに沿って、学習が進めた。学校によっては、生涯学習系の学芸員、地域住民等をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動を通して学びを深めた。</p> <p>② ・どの小学校も6年の総合的な学習の時間に10時間を目安に組み入れて、現地学習、学芸員による学習を行った。</p> <p>③ ・ファミリー文庫お話し会や夏野菜の植え付け体験、サツマイモ等の収穫体験をサポートいただき園児の絵本、野菜に関する興味の芽生えに成果を得られた。 ・小学生を対象に、琴の演奏体験や商工会の方に町の産業をお話していただく等の活動も行った。</p>
<p>改善・充実策</p>	<p>② ④ ・今のところ、タブレット端末機の持ち帰り等でトラブルはないが、スマホ等の端末の所持率が上がっていることから、さらに情報モラル・情報リテラシーの教育は強めていきたい。</p> <p>③ ① ・演劇鑑賞の貴重な機会として、来年度も実施を継続したい。</p> <p>② 「非核平和の町」の取り組みの一環として、子どもたちに平和の尊さへの関心を持ってもらう事業として、次年度以降も継続したい。</p> <p>④ ② ・これから求められる力として、児童の積極的に発信できる力を伸ばしたい。</p> <p>③ ・園児や児童にとって、貴重な学習の機会となっており、さらに活動を充実させていきたい。必要に応じて、生徒対象の活動も実施したい。</p>
<p>担当者自己評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>
<p>教育委員評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>
<p>第三者評価 委員評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>

2 一人一人を大切に作る温かい教育

重点施策	<p>(1) 〔特別支援教育〕 特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。</p> <p>① 特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用</p> <p>② 関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立</p>			
重点項目と評価	①	① 教育的ニーズに応える学びの場の整備	a	
		② 指導体制の整備	a	
	②	① 校内での連携	b	
		② 関係機関との連携	a	
具体的な取組	<p>① ① ・通級指導教室 特別支援学級の運営</p> <p>・適切な桑折町教育支援委員会の開催 (就学指導担当者会議 就学時教育相談 就学指導審議会)</p> <p>② ・特別支援教育支援員の配置と研修の充実 (特別支援教育支援員研修会 年2回 支援員の評価)</p> <p>・特別支援教育担当者研修会 年1回</p> <p>② ① ・園内での支援の実態把握</p> <p>・校内教育支援委員会の開催</p> <p>② ・特別支援学校(地域支援センター)との連携</p>			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	<p>① ① ・巡回型通級指導教室は、町教委と連携を図りながら効果的な指導を続けている。</p> <p>・ニーズに合った理解しやすい環境構成を取り入れ、個々の実態に合った声かけや見守る等の援助の実施に努めた。</p> <p>② ・研修会については、県北教育事務所指導主事を講師に計画的に実施しており、今年度から特別支援教育担当者研修会を新たに設けた。</p> <p>・保護者支援、担任支援を担い、必要に応じた教育相談の実施、現場での状況把握を行う等きめ細やかに対応することができた。</p> <p>② ① ・実態把握をもとに個別の支援計画を作成し、効果的な支援を行っている。</p> <p>・5月連休明けに支援の実態把握を実施した。健康面で留意しなければならない幼児も含まれる。職員が共有していることで幼児の変化に気づくことができ、有効である。</p>			

<p>成果・評価</p>	<p>② ・就学指導審議会での審議員としての連携がある。また、特別な支援が必要な児童の観察を依頼した学校もある。</p> <p>・保育所や小学校、療育施設等の関係機関と連携をしたり健康福祉課と情報交換をする等、切れ目のない支援を行ったことで、支援についての成果が見られた。</p>
<p>改善・充実策</p>	<p>① ① ・就学指導に関しては、今後も学校と綿密に連携をとりながら、計画的に進めていきたい。</p> <hr/> <p>② ① ・年度末にLITALICOアプリを採用したため（醸芳小、醸芳中 現在無料期間）、校内研修や教材作成、支援計画の作成に活かすことが期待できる。</p> <hr/> <p>② ① ・特別支援担当者会で個別の支援計画の作成について研修を行ったので、これを活かして作成をしていく。</p> <hr/> <p>② ② ・今後も継続的に連携を図っていく。研修会の講師での活用も考えていきたい。</p>
<p>担当者自己評価</p>	<p>A 大変良い （目標を上回って達成した）</p>
<p>教育委員評価</p>	<p>A 大変良い （目標を上回って達成した）</p>
<p>第三者評価 委員評価</p>	<p>A 大変良い （目標を上回って達成した）</p>

2 一人一人を大切に作る温かい教育

重点施策	<p>(2) 〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。</p> <p>① 不登校が起きない学級・学校づくり</p> <p>② スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援</p> <p>③ 教育支援センター等による教育機会確保と学校復帰支援</p>			
重点項目と評価	①	① 魅力あるよりよい学級・学校づくりの推進	b	
		② 学校生活アンケート（Q U）等による子ども理解と実態把握、結果の活用	b	
	②	① スクールカウンセラー（SC）による教育相談の推進	a	
		② スクールソーシャルワーカー（SSW）による家庭支援と関係者の連携推進	a	
	③	① 教育支援センター（A Y U M I）における児童生徒の居場所づくり	b	
		② 関係機関との連携による多様な教育機会の確保	b	
		③ スペシャルサポートルーム（SSR、特別教室登校）での支援	b	
具体的な取組	①	① ・特色ある魅力ある学校経営・運営の指導		
		② ・町としてのQ U検査の分析と情報共有 ・各小・中学校でQ U検査の分析をもとにした生徒指導委員会の開催。		
	②	① ・S Cの積極的な活用		
		② ・S S Wの積極的な活用		
	③	① ・児童生徒の実態に応じた積極的な活用の呼びかけ		
		② ・県教委主催オンラインでの支援（ルームF）の活用		
		③ ・教育委員会としての支援員の配置		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	② ②	SSWの相談件数	のべ270件 (前年度実績)	のべ292件
成果・評価	①	① ・児童生徒にとって魅力的な学校となるよう、教職員人事評価制度の面談等を活用して、校長・教頭のより円滑な学校経営・運営について取組を評価し、指導した。		
		② ・町としてのQ U検査の分析を行い、校長会議で開示し、町全体の傾向について情報共有を図った。小学1年生3年生の結果が良くなかったため、学級経営について対処するよう指導した。		

<p>成果・評価</p>	<p>② ① ・町雇用の小学校のSCについては、各小学校の保護者とのカウンセリングを実施するとともに、夏休みと冬休みにWISC-Vの検査を実施した。また、定期的にカウンセラーだよりを発行した。</p> <p>・中学校配置の県のSCについては、マイナス思考が強い生徒のカウンセリングにあたり、心の安定を図るなどした。</p> <hr/> <p>② ・SSWは、多くの家庭、保護者との教育相談、家庭訪問を実施し、改善傾向が見られた。</p> <hr/> <p>③ ① ・AYUMIの利用者はいなかった。不登校傾向の児童生徒は減少傾向にあり、中学校のSSRと競合する部分があるが、学校に登校できない児童生徒の居場所、学習する場所が必要であるとする。</p> <hr/> <p>② ・1名の利用者があった。様々な学びの機会を設けていきたい。</p> <hr/> <p>③ ・不登校傾向、不適応生徒が利用した。支援員が寄り添い、学習や生活のサポートを行い、学級復帰と卒業により、年度末には利用者が減少した。</p>
<p>改善・充実策</p>	<p>① ① ・人事評価に係る面談、町校長会議や町教頭会議での指導を継続していく。</p> <hr/> <p>② ・町全体の傾向をつかむだけでなく、各校・各学級での対策について指導を行う。</p> <hr/> <p>② ① ・指導主事がSCを講師にWISC-Vの研修を行い、大変有意義なものになった。今後の就学指導等に活かしていく。</p> <hr/> <p>② ・町教委、健康福祉課等と情報共有を図りながら、家庭や児童生徒の支援を図っていきたい。</p> <hr/> <p>③ ① ・AYUMI利用希望者が出てきている状況から、令和7年度よりAYUMIを開所する。特に中学生の不登校生徒に対応していきたい。</p> <hr/> <p>② ・不登校生徒に紹介をしていきたい。</p> <hr/> <p>③ ・町教委やSSWと連携を図りながら、運営をしていく。</p>
<p>担当者自己評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>
<p>教育委員評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>
<p>第三者評価 委員評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

重点施策	<p>(1) [英語教育] 子どもたちに英語の4つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。</p> <p>① 英語指導助手・指導協力員の活用 ② 英検受験奨励・費用助成 ③ 英語体験活動の実施</p>			
重点項目と評価	① ① 英語指導助手（ALT）1名の配置・活用	b		
	② 英語指導協力員2名の配置・活用	a		
	② 英検受験奨励・費用助成	b		
	③ 中学生英語体験活動	b		
具体的な取組	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の外国語科と外国語活動についての外国語教育推進リーダーと英語指導協力員及びALTの指導体制の工夫 ・中学校を中心としたALTの効果的な活用 ・幼稚園におけるALTによる『ALTと遊ぼう』の実施(年長) ・幼稚園における外部講師『英語で遊ぼう』の実施(年少、年中) <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑折学習塾における中学1，2年生を対象としての英検練習の実施。 ・英検受験奨励として、受験料の半額補助。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/22-23 醸芳中学校第2学年ブリティッシュヒルズ英語実践研修を実施。 			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	① ②	外部講師『英語で遊ぼう』の実施(年少、年中) ALTの活用(年長)	年6回 (学年各3回) 年10回	年6回 (学年各3回) 年10回
	②	英語検定合格者	34名/全校生241名 ※受検者54名 (前年度実績)	45名/全校生241名 ※受検者49名

成果・評価	①	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育の指導体制に基づき、幼稚園、小・中学校の外国語（英語）教育を円滑に進めることができた。小学校ではふくしま外国語教育推進リーダーが外国語の授業を担い、専門的な知識や技能を活かした効果的な児童を行った。また、小学校の外国語科において、ALTを相手に桑折町について紹介したり他校とオンラインで交流したりするなどの活動を通して、児童が意欲的に活動し「話す」「聞く」などの力を高めることができた。 ・幼稚園では年少時から『英語で遊ぼう』で英語に触れているため、年長時の『ALTと遊ぼう』の活動を喜んでいる。 ・幼児の生活に密着した単語等を掲示したことで、毎日の生活の中で、自然と触れ合うことができた。 		
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・桑折学習塾において、中学1，2年生を対象として英検の問題練習を行った。 ・英語検定受検者数は、全校生徒数の20.3%。合格者数は、全校生徒数の18.7%であった。昨年度よりも受験者数は減少したものの、合格者数は増加した。未だ、英検受験に積極的な生徒が限られている現状である。 		
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業では体験できない英語活動により、生徒たちが英会話の実践力を大いに試す機会となり、国際感覚を深められた。 ・日常とは別の習慣に接する中の集団行動を通してルールを守り、それぞれの生徒が互いに協力して活動する実践の場になった。 		
改善・充実策	①	<ul style="list-style-type: none"> ・小中での互見授業など小中で積極的な連携を行い、英語指導力員の効果的活用を図りながら英語指導の充実を図っていく。 		
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に積極的に呼びかけ、受検者を増やしていく。 		
	③	<ul style="list-style-type: none"> さらなる授業の成果が得られるよう、実施時期を2学期にすることも考えられる。 		
担当者自己評価	B	良	い	（目標の通り達成した）
教育委員評価	B	良	い	（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B	良	い	（目標の通り達成した）

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

重点施策	<p>(2) 〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。</p> <p>① 1人1台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業</p> <p>② 家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習</p> <p>③ ICT支援員配置・活用と教職員研修</p> <p>④ ICT教育環境の整備と充実</p>			
重点項目と評価	① ① 主体的・対話的で深い学びの効果的実現と情報活用能力の育成をめざす授業の実施	b		
	② ② プログラミング教育の推進	b		
	② ① 双方向型情報通信による家庭とのオンライン授業の実施	b		
	② ② 他校等との交流授業の実施	b		
	③ ① ICT環境整備・活用委員会による協議・研修等の実施	b		
	③ ② ICT支援員（GIGAスクールサポーター）の配置と活用	b		
	④ ICT教育機器・設備のメンテナンスと更新	b		
具体的な取組	<p>① ① ・タブレット端末機の活用、ロイロノートスクールのさらなる活用、メクビット活用による質の高い授業の実施</p> <p>② ② ・各教科による実践で論理的思考力の育成</p> <p>② ① ・長期休業におけるGoogle works やロイロノートスクールの利用</p> <p>・不登校児童へ授業のオンライン配信や健康観察の実施</p> <p>② ② ・小学校外国語等の授業で、他校とオンライン授業を実施</p> <p>③ ① ・活用検討委員会の開催</p> <p>・活用委員会主催の先進校の視察研修会実施</p> <p>・活用委員会主催の授業研究会実施</p> <p>② ② ・ICT支援員を週1日ずつ各小・中学校に配置。</p> <p>④ ④ ・学校からの不具合等の報告対応。</p>			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	② ②	他校との交流事業の実施	3回 (前年度実績)	4回

成果・評価	<p>① ① ・ICT支援員の指導により、全ての教員がロイロノートスクール、メクビットを使用することができた。ロイロの機能の紹介もあり、児童生徒も授業の中で「共有ノート」を積極的に使えるようになり、協働的な学びを深めることができた。</p> <p>② ・各教科の中で、考えるための適宜活用・発揮させた。無料アプリを活用したプログラミング学習にも取り組んでいる。</p> <p>② ① ・教員のオンラインの技術が向上し、ある小学校においては不登校の児童や欠席した児童に授業を配信したり、健康観察の連絡等を行ったりして、学びの連続性を図ることができた。</p> <p>・長期休業においては、Google worksやロイロノートスクールを利用し、健康観察や課題の取組状況の把握ができた。</p> <p>② ・小学校の外国語授業では、国見町や会津美里町、台湾の小学校とオンラインを活用した授業を展開した。また、総合的な学習の時間に宮城県石巻市とオンラインによる交流を行い、桑折町の紹介を行った学校もあった。</p> <p>③ ① ・年2回（5月と2月）にICT活用検討委員会を開催した。</p> <p>・先進校視察として、伊達市立伊達東小学校に各学校代表8名で参加した。ICTの活用について研修し、それぞれの学校の授業に活かすことができた。</p> <p>・授業研究会として、醸芳小学校で開催し、福島大学から准教授を招き、ICT活用について指導・助言を頂き、研修を深めることができた。</p> <p>② ・毎週1回ICT支援員が訪問している。授業の支援はもちろん研修会の講師などを務め、児童生徒のみならず教員のICT活用能力の向上に寄与した。</p> <p>・年度末にL-GATEやGoogleアカウントの更新作業を担い、新年度の準備をスムーズに行うことができた。</p> <p>④ ・ICT支援員等と連携しながら、不具合等には迅速に対応し、授業の妨げにならないように努めた。</p>
改善・充実策	
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

重点施策	<p>(3) [各種教育課題] 子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育てていくことをめざす。</p> <p>① 防災・安全教育 ② 持続可能な開発のための教育 ③ 感染症対策も含む健康教育</p>			
重点項目と評価	① ① 防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底	b	② 減災の視点に立った実効性ある避難訓練等の実施	b
	③ 通園通学指導による交通安全啓発活動の実施	b	④ 東日本大震災の体験等に基づいた安全教育・防災教育・放射線教育の充実	b
	② SDGs（持続可能な開発目標）の達成をめざす教育活動			b
	③ ① 学校における感染症対策の徹底	b	② 正しく理解し、判断・行動できる力の育成	b
	③ 健康な生活習慣の実践			b
具体的な取組	① ① ・幼稚園における施設設備の安全点検と遊びの中で行う安全指導 ・小中学校における施設設備の安全点検と避難訓練時の防災体制の確認			
	② ・各学校の災害リスクに応じた避難訓練実施 ・火災、地震、弾道ミサイル時の避難訓練及び不審者対応訓練の実施と反省、改善			
	③ ・各校において、交通安全教室の実施 ・桑折町PTAと連携した自転車のヘルメット着用啓発活動 ・幼稚園において、第1駐車場での立哨指導			
	④ ・各学校で策定する「放射線教育計画」を基に放射線について理解を深める学習の実施			
	② ・小中学校における「ふくしまゼロカーボン宣言事業」の取組			
	③ ① ・新型コロナウイルス感染症5類移行を踏まえた対策の継続			
	② ・新型コロナウイルス感染症5類移行を踏まえた対策の継続			
	③ ・『早寝早起き朝ごはん』の呼びかけ			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	②	ふくしまゼロカーボン宣言事業への参加校	5校/5校	5校/5校

- ①
- ① ・ヒヤリハットマップを確認することで学級内または戸外の安全な環境への視点が共通となり、危険を察知する力の育成や安全確保に繋がった。
- ・職員会議で打ち合わせを行い、実施後の職員会議で各学年の反省を伝え、不具合がある時は改善策を考え次の計画に生かし持効性ある訓練に努めた。
- ・学校においては、事前に児童生徒に周知せず、抜き打ちで避難訓練を実施することで、日頃の危機管理意識を強めた。
-
- ② ・幼稚園・各学校において災害リスクに応じて、避難訓練を行った。水害を想定して避難訓練を行った学校もあった。また、実施後の職員会議で各学年の反省をもとに改善策を考え次の計画に生かし実効性のある訓練に努めた。
-
- ③ ・各校において、交通安全教室を実施するとともに、児童生徒の登校時に立哨指導を行い、交通安全の意識を高め事故防止に努めた。
- ・幼稚園では、今年度は職員体制の関係上、第1駐車場の立哨指導が不十分な時もあったが、園だよりや掲示等で駐車場利用の際の約束について知らせたことは危険運転の抑止力に繋がっていた。
-
- ④ ・各学校で策定する「放射線教育計画」を基にして、主に学級活動の時間に、各学年の実態に応じて放射線について理解を深める学習を行った。
- ・3月11日には、各学校において追悼の集会を行った。
-
- ② ・桑折町内の5つのすべての小中学校で、「ふくしまゼロカーボン宣言事業」参加し、節電などに取り組んだ。
-
- ③
- ① ・衛生的な環境を保つために教室の換気と机等の消毒を行うとともに、活動に応じて、園児・児童生徒の手指消毒を行った。
- ・体調不良の園児・児童・生徒について、早めの対応を行った。
- ・5類移行後も室内喚起や手洗いなど日常的な対応を継続していたことは、感染が一気に広まらなかったことに繋がったと思われる。
-
- ② ・新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、判断・行動できる力を育んだ。
- ・感染者(濃厚接触者)に対する偏見・差別が生じないよう人権に配慮した指導を行った。

<p>成果・評価</p>	<p>③ ・園児の朝食の摂取率は100%近い。その一方で、品目が少ない園児も見られる。</p> <p>・児童生徒の朝食の摂取率は98.7%であったものの、朝食時に野菜や汁物等の副菜を食べている生徒は半数程度であった。</p>
<p>改善・充実策</p>	<p>① ① ・安全性を第一に環境の構成、事故防止に努めたが、怪我につながるがあった。今後、さらに怪我や事故防止に努める必要がある。</p> <p>・来年度も今年度同様、安全安心な環境作りに取り組んでいきたい。また、幼稚園では安全対策としてヒヤリハットマップの掲示や園内研修が有効だったため継続したい。</p>
<p>担当者自己評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>
<p>教育委員評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>
<p>第三者評価 委員評価</p>	<p>B 良 い (目標の通り達成した)</p>

4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続

重点施策	(1) 〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。 ① 保育改善・充実に向けた研修会や視察の拡充			
重点項目と評価	①	① 環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実		b
		② 教職員の資質・専門性の向上		b
具体的な取組	① ① ・幼児自ら取り組めるような環境の構成と教師のかかわり ・子どもの気付きや試行錯誤を大切にしながら考える過程を重視した保育 <hr/> ② ・年齢別保育研究会・園内研修の実施			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	② 要請訪問と保育研究会の実施	2回（各1回）	2回（各1回）
		② 保育研究会後の所感回収率	90%	100%
成果・評価	① ① ・指導力を高めるための手立てとして、6月に要請訪問、11月に保育研究会を実施し、『主体的保育と環境を通じた教育』についての学びを深めた。 <hr/> ② ・保育参観や事後研修会の参加者には用紙を準備し所感を記入していただいたことは、色々な視点からの感想を聞くことで職員の学びに繋がった。 ・要請訪問・保育研究会を実施し、『主体的保育と環境を通じた教育』についての学びを深めた。			
改善・充実策	① ② ・引き続き、子どもの意欲や主体性が引き出される環境づくりに努める必要がある。			
担当者自己評価	B 良 い（目標の通り達成した）			
教育委員評価	B 良 い（目標の通り達成した）			
第三者評価 委員評価	B 良 い（目標の通り達成した）			

4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続

重点施策	<p>(2) [小中学校との連携] 幼稚園教育と小中学校教育との円滑な接続を図ることにより、子どもたちの成長が効果的に積み重ねられることをめざす。</p> <p>① 保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育・授業研究会 ② 幼児・児童・生徒の交流活動</p>			
重点項目と評価	①	① 保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施	b	
		② 幼稚園・小学校の連携の促進	b	
		③ 民設民営による認定こども園との連携による教育の充実	a	
	②	幼児・児童・生徒の交流活動の実施	b	
具体的な取組	①	<p>① ・幼小接続保育研究会の実施</p> <p>② ・「幼保小架け橋プログラム検討委員会」を通して、架け橋期のカリキュラムの検討・作成を行い、さらなる連携を図る。</p> <p>③ ・認定こども園開園に向けた運営内容の確認・協議</p>		
	②	<p>・幼保交流会、幼小交流会の実施</p> <p>・各小学校ごとに交流会の実施</p>		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	②	<p>幼保交流会</p> <p>幼小交流会</p>	<p>3回 (年長・年中・年少)</p> <p>3回 (9月J小・10月J小・2月各小)</p>	<p>3回 (年長・年中・年少)</p> <p>3回 (9月J小・10月J小・2月各小)</p>
成果・評価	①	<p>① ・醸芳小学校の校長先生に効果的な幼小接続についてご指導をいただき小学校教育と幼稚園教育の違いや共通点について理解を深めることができた。</p> <p>② ・円滑な幼小接続をめざし、幼保小架け橋プログラム検討委員会において、架け橋プログラム期カリキュラムの検討を行い、作成した。</p> <p>③ ・令和7年4月の開園に向け、事業者と運営内容の協議及び民間ならではの幼児教育の特色について確認した。</p>		
	②	<p>・保育所や小学校との交流会を目標通り実施した。小学校との交流では互いに実りある交流になるよう、職員間で事前打ち合わせ・事後反省会を実施した。子どもの実態を互いに理解しながら進めることができた。</p>		
改善・充実策	①	<p>② ・今後は架け橋期のカリキュラムを活用し、カリキュラムの検討・改善に計画的に取り組む必要がある。</p>		

担当者自己評価	B 良 い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)

5 家庭への手厚い子育て支援

重点施策	<p>(1) 〔経済的支援〕「待機児童ゼロ」を堅持するとともに、子育てに係る家庭の経済的負担を軽減することにより、すべての子どもが平等に充実した保育・教育を受けられることをめざす。</p> <p>① 保育所や預かり保育の「待機児童ゼロ」を堅持していくための受け入れ体制の整備</p> <p>② 給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与・病児病後児保育利用料助成</p>																								
重点項目と評価	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>① 人的・物的な受け入れ体制の維持と充実</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 乳幼児保育の民設民営による認定こども園への移行</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 保育体制の充実</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>① 給食費の補助</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 入園・入学幼児児童生徒への祝い品（制服）支援事業の実施</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ 児童生徒への就学援助支給</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ 奨学資金制度の利用促進</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤ 在園・在所児の病児・病後児保育利用の支援</td> <td>b</td> </tr> </table>	①	① 人的・物的な受け入れ体制の維持と充実	b		② 乳幼児保育の民設民営による認定こども園への移行	a		③ 保育体制の充実	b	②	① 給食費の補助	a		② 入園・入学幼児児童生徒への祝い品（制服）支援事業の実施	b		③ 児童生徒への就学援助支給	b		④ 奨学資金制度の利用促進	b		⑤ 在園・在所児の病児・病後児保育利用の支援	b
①	① 人的・物的な受け入れ体制の維持と充実	b																							
	② 乳幼児保育の民設民営による認定こども園への移行	a																							
	③ 保育体制の充実	b																							
②	① 給食費の補助	a																							
	② 入園・入学幼児児童生徒への祝い品（制服）支援事業の実施	b																							
	③ 児童生徒への就学援助支給	b																							
	④ 奨学資金制度の利用促進	b																							
	⑤ 在園・在所児の病児・病後児保育利用の支援	b																							
具体的な取組	<p>①</p> <p>① ・計画的な会計年度任用職員募集や人材派遣委託により、保育士等の確保を行い、受け入れ体制の維持と充実を図る。</p> <p>② ・県、事業所と連携を密にし、認定こども園建設の補助金に必要な書類の提出や運営内容の確認、職員雇用に向けた協議の実施。</p> <p>③ ・預かり・放課後児童保育支援員研修会及び児童館長による巡回指導の実施、特別な支援を必要とする園児・児童に対する保育の充実。</p> <p>②</p> <p>① ・給食費の無償化を実施。（幼稚園、小中学校全額補助）</p> <p>② ・翌年度新入学児童生徒、幼稚園入園児および当年度転入学児童生徒へ町内各学校・幼稚園の制服を入学祝いとして支給。特別支援学校進学者には祝金を支給。</p> <p>③ ・要保護・準要保護児童生徒に認定された保護者に対し、学用品費等を各学期末に支給。</p> <p>④ ・桑折町奨学資金についての周知・利用促進の実施。利用しやすいための要件緩和の検討。</p> <p>⑤ ・在園・在宅児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施</p>																								

数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	① ①	待機児童人数	0人	0人
	② ②	幼稚園入園祝い品（制服）支給件数	79件 （前年度実績）	48件
	③ ③	病児・病後児保育利用件数	4件 （前年度実績）	1件
	④ ④	奨学資金（総）貸付者数	28人 （前年度実績）	21人
	① ①	<p>・保育士等について、人材確保・保育の充実を図ることができ、待機児童ゼロの堅持ができた。</p> <hr/> <p>② ②</p> <p>・令和7年4月開園に向け、建設費の補助金等について、県や設置事業者と協議を進めることができた。</p> <p>・運営のための内容や職員雇用について、協議を進めることができた。</p> <hr/> <p>③ ③</p> <p>・研修会等に参加したことで、支援員としてのスキルアップに繋げることができた。</p> <p>・特別な支援を要する園児、児童に対しても配慮ある保育を行えた。</p> <hr/> <p>② ①</p> <p>子育て支援策の一環として、給食費の全額町負担を実施した。</p> <hr/> <p>② ②</p> <p>・小学校：新入学67名・転入学5名、中学校：新入学78名・転入学1名に対し制服支給を行い、家庭の負担軽減を図った。祝金対象の特別支援学校入学者は、1名に対し支給を行った。</p> <hr/> <p>③ ③</p> <p>・要保護・準要保護児童生徒に認定された保護者に対し、学用品費等を援助することで、経済的支援を行い、困窮家庭の児童生徒の就学機会を確保した。</p> <hr/> <p>④ ④</p> <p>・奨学資金の新規貸付5件であった。</p> <p>・桑折町奨学資金についての周知・利用促進を行った。</p> <hr/> <p>⑤ ⑤</p> <p>・病児、病後児保育利用料助成事業を行い、保護者の経済的負担の軽減を図った。</p>		

改善・充実策	① ① ・認定こども園においても、教育保育の充実に努め待機児童ゼロの堅持を図る。
	② ① ・食材費が高騰している中においても、子育て支援策の一環として、給食費の全額無償化を継続していく必要がある。 ⑤ ・認定こども園においては、園児を対象に病児保育事業を実施していく。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

5 家庭への手厚い子育て支援

重点施策	(2) 〔家庭教育支援〕家庭の教育力向上に向けた支援を行うことにより、それぞれの家庭で子どもたちが健やかに成長することをめざす。 ① 家庭の教育力向上支援			
重点項目と評価	①	① 家庭教育についての保護者への啓発		b
		② 情報提供や相談体制整備		b
		③ 子育て支援施策についての情報発信の強化		b
具体的な取組	①	① ・『頭のよい子に育てるために今すぐ絶対やるべきこと』（川島隆太博士著）を活用した家庭の教育力向上を図る。 ・園長講話、学級懇談、家庭教育学級の実施 ② ・個別懇談や必要に応じた教育相談の実施 ・幼稚園での『園生活の様子』の配布(クラスの様子、個別の様子)及び園生活の様子を知らせるホームページの更新 ③ ・町ホームページを活用し、認定こども園建設や運営内容に伴う保護者等への周知や、園児・児童募集等を広報等で周知。		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 本の配付件数	26件 (前年度実績)	35件
	①	② 幼稚園評価『「園だより」や「園生活の様子」、懇談機会を通して幼稚園での様子を伝えているか』	70%以上	95.9%
		② 幼稚園評価『相談に親身になって対応してくれているか』	70%以上	93.7%
		② 園での町ホームページ更新	幼稚園開園日の90%以上	193日
成果・評価	①	① ・妊婦全戸訪問の際に川島隆太先生の本を配付し、家庭の教育力向上に努めた。(配付については、第一子、町転入後に初めて出産する場合のみ) ・幼稚園において、4月に学級懇談、6月に園長講話を実施した。		

成果・評価	<p>② ・家庭に対し、期ごとのねらいに基づいた内容で園生活での様子については毎月、個々の様子については期ごとに知らせた。 ・HPを利用し、幼稚園で過ごしている園児の様子を知らせた。</p> <p>③ ・認定こども園開園延期や募集案内・運営内容について、町ホームページへの掲載や保護者説明会など町民や保護者等への情報発信に努めた。</p>
改善・充実策	<p>① ② ・子どもが幼少期のうちから身につけておきたいのが「伝える力」であり、相手に自分の意思をしっかりと伝えることができれば、良好な人間関係を築いたり、安定したりすることに繋がることから、今後も子ども一人一人の伝えたいという思いを丁寧に受け止めるかわりに努める。 ・幼稚園評価の『園経営の重点・教育目標等について分かりやすく知らせているか』では、とてもそう思うが63%、そう思うが31%であったことを踏まえ、更に伝え方の工夫が必要と思われる。</p>
担当者自己評価	B 良 い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	A 大変良 い (目標を上回って達成した)

6 小中学校のあり方の検討

重点施策	<p>(1) [少子化への対応] 小学校が小規模化している現状を踏まえ、今後のあるべき姿を検討し、その実現をめざす。</p> <p>① 学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析</p> <p>② 小学校統合についての様々な観点からの検討</p>			
重点項目と評価	①	① 小学校児童数の現状と今後の推移についての把握	b	
		② 学級編制の見通しについての分析	b	
	②	① 教育委員会のこれまでの方針の確認	b	
		② 小学校統合についての計画的・総合的な議論の推進	b	
具体的な取組	①	① ・現状と今後の推移についての調査		
		② ・今後の学級編制見直し分析		
	②	① ・教育委員会定例会における情報共有		
		② ・協議の場の設置検討		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①	・児童数の現状と今後の推移の把握および学級編制の見直し分析を行い、今後の推移について把握検討を行った。		
	②	① ・教育委員会定例会においても、「桑折町小・中学校のあり方検討委員会」での協議内容の報告を行い、現状確認等を行った。		
		② ・少子化が進んでいる現状を踏まえ、今後の本町の教育環境のよろよいあり方について様々な立場からの検討が必要なことから、学識経験者・保護者・地域住民代表・学校教職員代表を委員として「桑折町小・中学校のあり方検討委員会」を設置し、総合的な検討を行った。		
改善・充実策	②	・次年度において、あり方検討委員会から教育委員会今後の本町の小・中学校のよりよいあり方について提言し、教育委員会で具体的な方向性を定めた上で、町としての指針を定める。		
担当者自己評価	B	良 い (目標の通り達成した)		
教育委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)		
第三者評価 委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)		

6 小中学校のあり方の検討

重点施策	<p>(2) 〔学校運営の改善〕 今後求められる教育を実施していくために必要な学校運営のあり方について検討し、その実現をめざす。</p> <p>① 小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入などの検討</p> <p>② 学校における働き方改革の推進</p>			
重点項目と評価	①	① 小中一貫教育の導入の検討	b	
		② コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入の検討	b	
		③ 学校支援ボランティアの活用	b	
	②	① 桑折町学校行事等検討委員会よりの提言を受けての対策の実施	b	
		② 「桑折町立学校に勤務する教育職員が業務を行う時間の上限に関する規則」の趣旨の実現に向けた取組	b	
具体的な取組	①	① ・小中一貫教育の導入検討		
		② ・コミュニティ・スクールの導入検討		
		③ ・学校支援ボランティアの活用検討		
	②	① ・学校での陸上競技大会を町社会体育行事として移行		
	② ・校務支援システムの利活用			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①	<p>・学識経験者、保護者、地域住民代表、学校教職員代表を委員とした「桑折町小・中学校のあり方検討委員会」を設置し、学校の統廃合を含めた今後の教育環境のよりよいあり方について総合的な検討を行った。</p>		
	②	①	<p>・学校で行われていた陸上競技大会については、新「桑折町小学生陸上競技大会」として、令和4年度より、町教育委員会を主催とし、校長、PTA、地域団体から構成する実行委員会を組織し、大会を実施した。</p>	
		②	<p>・校務支援システムの利活用により、勤務時間の把握及びデジタル化による業務の効率化を進めて、教職員の勤務軽減を図った。</p>	
改善・充実策				
担当者自己評価	B	良　い　（目標の通り達成した）		
教育委員評価	B	良　い　（目標の通り達成した）		

第三者評価
委員評価

B 良 い (目標の通り達成した)

7 教育施設・設備の充実

重点施策	<p>(1) 〔学校施設〕安全・安心で子どもたちの学びを支える良好な教育環境の維持・向上の方策を確立し、その実現をめざす。</p> <p>① 学校施設・設備について、長期的な維持・管理・整備計画の作成</p>		
重点項目と評価	①	① 安全・安心な教育環境の確保と施設・設備の充実	b
		② 学校教育施設・設備の維持管理と今後の点検・整備のあり方についての検討	b
具体的な取組	<p>① ① ・施設の老朽化による修繕については年次計画的に実施</p> <hr/> <p>② ・学校施設等長寿命化計画の検討・策定</p>		
数値目標と数値実績		項目	数値目標
			数値実績
成果・評価	①	<p>① ・小・中学校における施設の修繕工事について、次のとおり実施した。</p> <p>◎ 主な修繕工事等</p> <p>【醸芳小学校】地域交流センター軒天修繕工事、給食用エレベーター設備機器更新工事、太陽光発電設備修繕工事</p> <p>【睦合小学校】屋上防水シート改修工事、貯水槽揚水ポンプ更新工事、漏水復旧工事</p> <p>【半田醸芳小学校】揚水ポンプ修繕工事、2階女子トイレ洋式化工事、2階トイレ扉（アコーデイオンカーテン）設置工事</p> <p>【伊達崎小学校】太陽光発電設備修繕工事</p> <p>【醸芳中学校】給食用エレベーター設備機器更新工事、校庭足洗い場漏水修繕工事、体育館床下修繕</p> <p>【小・中学校】普通教室エアコン更新（リース）</p>	
		<p>② ・長寿命化計画策定に向けて、過去の維持費の積み上げ及び今後の見通し等について調査・分析を行った。</p> <p>・小学校のあり方検討委員会や町公共施設等総合管理計画と連携しながら実施する。</p>	
改善・充実策	①	<p>・桑折町小・中学校のあり方検討委員会を設置し、今後のあり方を検討しているが、学校施設については、築年数が古く、老朽化が進んでいることから、施設の維持については、様々な検討が必要である。</p>	

担当者自己評価	B 良 い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)

7 教育施設・設備の充実

重点施策	<p>(1) [給食センター] 安全・安心でおいしい給食を安定供給するとともに、食育および地産地消の拠点としての機能を果たす施設としてのあり方を検討し、その実現をめざす。</p> <p>① 給食センター施設・設備の計画的な維持・管理・整備 ② 今後の管理・運営のあり方の検討</p>		
重点項目と評価	①	施設・設備の計画的な維持・管理・整備の推進	b
	②	給食センターのあり方の見直し	c
具体的な取組	①	・設備更新計画に基づく機器類の更新	
	②	・給食センターのあり方についての研究	
数値目標と数値実績		項目	数値目標
			数値実績
成果・評価	①	<p>・給食センター設備更新計画に基づき令和6年度においては、「ライスプロセッサ前工程機器」を更新し、作業の効率化を図ることができた。</p> <p>また、洗浄室等の空調設備更新工事を行い、安定した冷暖房設備を整え環境改善を図ることができた。</p>	
	②	<p>・給食センターの管理運営については、現在、調理・配送業務を民間委託し、施設管理は町が行っている。センターの在り方見直しについては、具体的な検討はできなかったものの、より効率的な運営を図るうえで近隣の状況把握等に努めてきた。</p>	
改善・充実策	①	<p>・給食センター設備機器更新計画に基づく機器更新を行い、施設環境を整え安全・安心な給食の提供に努める。</p>	
	②	<p>・より効率的な運営を図るうえで近隣自治体の取組みや、先進事例等の情報を収集し、給食センターのあり方について研究に努める。</p>	
担当者自己評価	B	良	い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B	良	い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B	良	い (目標の通り達成した)

項 目	評 価			
	自己 評価	教育委員 評価	社会教育委員 評価 文化財保護審 議委員評価	第三者評価 委員評価
1 生涯学習活動の推進				
(1) 生涯学習の推進	A	A	A	A
(2) ライフステージに応じた多様な学習機会の提供	A	A	A	A
(3) 青少年育成と社会教育団体の活動奨励	B	B	B	B
(4) 心を豊かにする読書活動の充実	A	A	A	A
(5) 芸術・文化の振興	A	A	A	A
(6) 公民館施設等の管理運営	B	B	B	B
(7) 多世代交流及び多文化交流の推進	B	B	B	B
2 社会体育・生涯スポーツの推進				
(1) 健康・体力づくりを目指す生涯スポーツ・社会 体育の推進	A	A	A	A
(2) スポーツ団体等の支援	A	A	A	A
(3) 体育施設等の充実	B	B	B	B
3 歴史まちづくりの推進				
(1) 歴史的風致維持向上計画の推進	B	B	B	B
(2) 文化財の保護・活用の推進	A	A	A	A
(3) 旧伊達郡役所の復旧と役割の見直し	B	B	B	B

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(1) 生涯学習の推進 ① 「桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）」の推進 ② 生涯学習推進体制の充実 ③ 生涯学習社会実現のため、情報提供と町民ニーズに対応する事業 ④ 生涯学習に関するニーズの把握			
重点項目 と評価	①	「桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）」の推進	a	
	②	社会教育委員の会議開催	a	
	③	現代的諸課題に対する学習の充実	a	
	④	生涯学習に関するニーズの把握	a	
具体的な取組	①	・「生涯学習推進基本計画（第3次）」の推進		
	②	・社会教育委員の会議開催		
	③	・スマホ講座、健康や防災、芸術鑑賞講座等の開催		
	④	・成人講座終了後の参加者アンケートの実施		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	③	成人講座開催数	37講座 (前年度実績)	39講座
成果・評価	①	・「生涯学習推進基本計画」の進捗管理については、庁内関係各課に対し、R5年度 of 取組状況・成果とR6年度 of 方向性等について取りまとめ、社会教育委員の会議で提示しご意見を伺った。		
	②			
	③	・公民館事業立案にあたって、引き続き、興味関心の高い現代的諸課題に対する分野（例えば、スマホ講座、健康づくり、防災関連、ゴミの出し方教室等）や、芸術鑑賞、大人の社会科見学（西分署・県警本部）といった、魅力ある内容の充実を図ることができた。		
	④	・成人講座開催の都度、参加者アンケートを取りながら、内容の量・質の満足度を伺い、次回講座開催の参考とすることができた。		
改善・充実策	③	成人講座の場合にあっても、デジタル活用（スマホ講座、SNS活用による情報発信等）の視点を重視していく。		
担当者自己評価	A	大変良い（目標を上回って達成した）		
教育委員評価	A	大変良い（目標を上回って達成した）		
社会教育委員評価	A	大変良い（目標を上回って達成した）		
第三者評価 委員評価	A	大変良い（目標を上回って達成した）		

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(2) ライフステージに応じた多様な学習機会の提供			
	① 中央公民館を拠点として、知識や技能を適切に提供することができるようライフステージに応じた内容の充実			
重点項目と評価	①	① 公民館運営推進員を中心とした公民館事業の実施 (成人講座・こおりキッズスクールの開催)		a
		② 親子教室等事業への開催支援(講師謝礼の助成)		b
具体的な取組	①	① ・公民館運営推進員を中心とした公民館事業の実施(こおりキッズスクール・成人講座等の運営)		
		② ・親子教室等事業への開催支援(講師謝礼の助成)		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 成人講座参加者延べ人数	803名 (前年度実績)	953名
	①	① こおりキッズスクールの登録人数(累計参加人数)	223名 (前年度実績)	199名
	①	② 親子教室等事業の開催件数	2回	2回
成果・評価	①	<p>① ・こおりキッズスクールについては、小学4年生～6年生10人が登録。 郡山ふれあい科学館見学、乾電池作り、コマ撮りアニメ体験、星空観察会、蔵王へお出かけ、カカシを作ろう、クリスマス飾り作り、国際交流講座、革製品作り 9講座実施 のべ199名参加 (前年度：講座数15 参加者のべ 223名) オープンスクール(登録者以外の児童)参加者がふるわず、目標をやや下回ったものの、随時内容の充実を図り、参加者から好評を得られた。</p> <p>・公民館事業については、中央公民館長、公民館運営推進員、生涯学習係員と四半期ごとに事業内容の検討を行い、向こう3か月の講座内容を記載した募集チラシを作成して成人講座の参加者を募った。</p> <p>睡眠満足度講座、悪徳商法講座、コーヒー教室、水引細工作り、季節の寄せ植え、終活講座、ボッチャ大会 等 講座数39、参加者数953名</p>		

成果・評価	② ・保育所・幼稚園・小・中学校や、子供会・PTAなどに機会をとらえて周知した結果、家庭教育支援事業で1件（保育所で子供たちへの効果的なほめ方について）、親子教室で1件（諏訪子供会で陶芸教室）の開催支援を行った。
改善・充実策	① ① ・学校では体験することができない、子ども達の関心を引くような企画を工夫し、参加人数を増やしながら、学校の垣根を超えた交友関係構築の機会をつくる。また、学校内で他の児童を誘うよう「ご招待チケット」等を作成し、キッズスクールに参加したことのない児童を誘う「お友達紹介システム」などを検討し、オープンスクールの参加者増を図る。 ② ・親子教室等の支援について、引き続き関係団体へ周知し、活用促進に努める。
担当者自己評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
社会教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
第三者評価 委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(3) 青少年育成と社会教育団体の活動奨励 ① 家庭、学校、地域及び社会教育に関する団体等との連携及び地域の教育力を活用し青少年の育成推進			
重点項目 と評価	①	① 桑折町青少年育成町民会議事業の実施		b
		② 立志式の開催		b
		③ 社会教育団体への活動支援		b
具体的な取組	①	① ・桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ② ・中学2年生を対象とした立志式の開催 ③ ・社会教育団体（ボーイスカウト）への支援		
数値目標と		項目	数値目標	数値実績
	①	① 青少年育成町民会議大会 参加者数	86名 (前年度実績)	68名
成果・評価	①	① ・町民会議大会を開催し、令和6年度の計画や努力事項等を決定。同大会への参加数は前年よりも減少したが、青少年のSNSやネットメディア付き合い方と健康的な生活習慣をテーマに、東北大学応用認知神経科学センター助教の榊浩平先生を講師として記念講演を開き、青少年の健全育成の啓発を図ることができた。 また、各地区部会活動に対する支援を行った。 ② ・2月3日に立志式を開催し、醸芳中学校2年生70名が参加。中学2年生に自他ともに社会の一員としての自覚や誇りを持たせることを目的として開催した。保護者同席で式典を行い、併せて銀の森治療院院長渡邊健先生を講師に、『「心」と「頭」と「体」を大切に』と題して記念講演を開催した。 ③ ・日頃の生活では味わえない体験や精神鍛錬等の活動をしている社会教育団体（ボーイスカウト）へ補助金を交付し、活動支援を行った。		
改善・充実策	①	① ・今年度も予定通り町民会議大会を開催することができたが、前回と比較して、参加者数が減少した。今後は、学校やPTA等へ広報・周知をしっかりと行い、幅広く町民への声掛けを行うなど、参加者の増加を図っていく。 ② ・昨年に引き続き、立志式・記念講演を保護者も同席の上、開催することができた。今後も継続して中学校と連携し、青少年育成につなげる必要がある。 ③ ・社会教育団体の活動支援を継続する必要がある。		
担当者自己評価	B	良　い　（目標の通り達成した）		
教育委員評価	B	良　い　（目標の通り達成した）		
社会教育委員評価	B	良　い　（目標の通り達成した）		
第三者評価 委員評価	B	良　い　（目標の通り達成した）		

1 生涯学習活動の推進

重点施策	<p>(4) 心を豊かにする読書活動の充実</p> <p>① 遊学館「よも～よ」の読書環境・学習環境の充実</p> <p>② 町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携と図書の有効活用・読書活動の充実</p>			
重点項目と評価	① 遊学館「よも～よ」における魅力ある企画運営	a		
	② ① 桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワークの推進	b		
	② ② ブックスタート事業の実施	a		
	② ③ 中央公民館主催「おはなしの会」の実施	a		
具体的な取組	<p>① ・遊学館「よも～よ」の利用向上のための魅力ある企画の実施</p> <p>② ① ・遊学館「よも～よ」と学校図書との連携</p> <p>② ② ・ブックスタート事業（乳幼児健診時）の実施</p> <p>② ③ ・中央公民館主催「おはなしの会」（月1回）の実施</p>			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	蔵書の貸出冊数（一般利用者）	年間20,072冊（前年度実績）	23,171冊
	② ①	蔵書の貸出冊数（教育施設への団体貸出）	年間1,580冊（前年度実績）	1,350冊
成果・評価	<p>① ・本を借りることでガチャガチャを回せる「ガチャ本企画」や、ぬいぐるみのお泊まり会、人気の本の投票をする紅白図書合戦など町民の興味を引くさまざまな読書推進企画と広報により、貸出冊数を23,171冊まで伸ばすことができた。（前年度20,072冊）</p> <p>② ① ・各小学校・子どもクラブ（睦合・伊達崎・半田）によも～よの蔵書（1,350冊）を貸し出すなどの学校図書室との連携を図り、読書環境の充実を図ることができた。（前年度1,580冊）</p> <p>② ② ・7か月児健診の乳児を対象にしたブックスタート事業では、ボランティア団体「ファミリー文庫」（3団体）による読み聞かせと絵本の贈呈（対象者44名）を行い、親子で絵本に親しむ機会を設けることができた。</p> <p>② ③ ・月1回程度、子育て支援センターとの連携を図りながら、中央公民館主催のおはなし会を実施し、本の出張貸出も行った。よも～よでのイベント周知なども行い、本に関心を持ってもらえるようPRに努めることができた。</p>			

改善・充実策	①	・子供向けの企画が多かったため、次年度以降は落ち着いた大人向けの企画、雰囲気づくりを検討し、子供だけではなく若者～働き盛り世代の読書推進を図り、更なる貸出冊数を増やす取り組みを検討する。
	② ②	・読み聞かせボランティア団体のうち1団体が、高齢化等の理由により令和6年度で活動を辞めることになった。既存団体の会員増を図るため、町民を対象とした読み聞かせの講座の実施を検討する。
担当者自己評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)
教育委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)
社会教育委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)
第三者評価 委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(5) 芸術・文化の振興 ① 芸術鑑賞会や文化講演会の開催 ② 町文化団体連絡協議会（町文化祭事業含む）及び加盟団体等の活動奨励・支援			
重点項目と評価	①	芸術鑑賞会や文化講演会の開催		a
	②	①	文化団体連絡協議会活動支援	a
		②	高齢者作品展の実施	a
具体的な取組	①	・芸術鑑賞会や文化講演会の開催		
	②	①	・文化団体連絡協議会活動に対しての補助金交付	
		②	・高齢者作品展の開催	
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	②	① 文化祭への来場者数	1,200人 (前年度実績)	1,400人
成果・評価	①	・成人講座にて、町外で開催している芸術鑑賞会（郡山美術館「印象派 モネからアメリカへ」、福島市テルサホールでの「桧枝岐歌舞伎福島公演観劇バスツアー」）へ訪問する講座や、落語鑑賞会など、生の芸術に触れる機会を作り、参加者からも大変好評だった。		
	②	①	・文化団体連絡協議会に対して50万円の補助金を交付し、活動を支援した。令和6年度の文化祭では、ビックアートやスタンプラリーなど、来場者が参加できる企画が好評であった。	
		②	・高齢者作品展では、町老人クラブ連合会の協力のもと、文化祭の開催と同時に行い、高齢者の生きがい・やりがいとなる発表の場を提供することができた。	
改善・充実策	①	・引き続き町外で行う鑑賞ツアーを企画しつつ、歴史文化分野と連携しながら、桑折町の歴史や文化を学ぶ機会も検討する。		
	②	①	・文化祭では、体験型のブースや演目が好評だったため、次年度以降も取り入れることを検討。より多くの来場者を集め、「笑いヨガ」「体操」など、参加者が発表者と一体になるような演目を参加団体とともに検討する。	
担当者自己評価	A	大変良い（目標を上回って達成した）		

教育委員評価	A 大変良い (目標を上回って達成した)
社会教育委員評価	A 大変良い (目標を上回って達成した)
第三者評価 委員評価	A 大変良い (目標を上回って達成した)

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(6) 公民館施設等の管理運営 ① 各施設の計画的な維持補修 ② 地区公民館の管理運営			
重点項目 と評価	①	各施設の計画的な維持補修と定期点検等		b
	②	地区公民館の管理運営(シルバー人材センター派遣による受付・清掃等施設管理)		b
具体的な取組	①	・各施設等の現状把握と適正な維持補修及び定期点検等の実施		
	②	・地区公民館のシルバー人材センター派遣による受付・清掃等施設管理の実施		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	②	各地区公民館 施設利用者数	18,613人 (前年度実績)	19,869人
成果・評価	①	・伊達崎公民館の日本間(畳の間)をフローリング化し、利用者の利便性が向上した。 ・桑折・半田公民館の消防設備(非常放送用設備)など、計画的な設備の更新ができた。		
	②	・地区公民館については、利用者が安心して使用できるよう管理人派遣による施設の維持管理を効率よく行うことができた。		
改善・充実策	①	・施設の建物と設備に関しては、適正に更新や修繕等が図られるよう計画し、予算を確保していく必要がある。		
	②	・地区公民館は、地域住民が使いやすいものにしていけるよう、住民自治協議会と運営方法等について検討していく必要があり、令和7年度から、先導モデルとして半田公民館を自治協管理となるよう検討・協議を進めた。		
担当者自己評価	B	良 い (目標の通り達成した)		
教育委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)		
社会教育委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)		
第三者評価 委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)		

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(7) 多世代交流及び多文化交流の推進 ① 地域学校協働活動事業 ② ボランティア人材の発掘 ③ 多世代交流の機会創出 ④ 多文化に関する学習機会の提供			
重点項目 と評価	①	地域学校協働活動事業の充実	b	
	②	ボランティア人材の確保	b	
	③	多世代交流の機会の提供	b	
	④	多文化交流の機会の提供	a	
具体的な取組	①	・地域学校協働活動推進員のコーディネートによる学校支援の充実		
	②	・ボランティア人材の把握と活用		
	③	・多世代による交流の場の提供		
	④	・国際理解を目的とした外国人との交流の場の提供		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	学校支援の回数	103件 (前年度実績)	91件
成果・評価	①	・幼稚園や各学校からの依頼により、推進員のコーディネートで各分野のボランティアを活用して学校支援を行った。前年よりも支援回数は減ったが、地域人材を活用することで子どもたちの興味関心を深めることができた。また、ボランティア活動を紹介したパンフレットやチラシを作成し、活動を広く周知することができた。		
	②	・2年毎に更新している人材バンク登録者名簿をもとに、各分野で学校支援等に協力いただくことができた。		
	③	・青少年育成町民会議の部会活動やボーイスカウト等への補助金交付により、多世代での事業展開を支援した。		
	④	・公民館講座（キッズスクール）において、多文化交流の一環として外国の伝統行事や食文化を学ぶ講座を開催し、外国人講師の講演を聞きながら中国とドイツのお菓子を試食し、文化を学ぶ機会を設けることができた。		
改善・充実策	①	・地域学校協働活動の支援回数を増やすため、学校・園・サポーターへのアンケートを実施し、成果と課題を明らかにし、改善を図る。また、活動内容を紹介するチラシを作成し、広く周知していく。		
担当者自己評価	B	良 い （目標の通り達成した）		

教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
社会教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)

2 社会体育・生涯スポーツの推進

重点施策	(1) 健康・体力づくりを目指す生涯スポーツ・社会体育の推進 ① 健康・体力づくりのための事業展開 ② イコーゼ!の効率・効果的な利活用				
重点項目 と評価	①	①	小・中学校と連携した社会体育の推進	a	
		②	運動教室の実施	b	
		③	スポーツ・健康講演会の開催	a	
	②	①	年代に応じた各種水泳教室の実施	a	
		②	小中学生水泳授業、町小学校水泳大会の開催	a	
		③	屋内遊び場の利用環境の向上と効果的な利活用	a	
具体的な取組	①	①	・小学生陸上競技大会の運営		
		①	・中学校部活動の地域移行		
		②	・運動教室の開催		
	②	①	・園児・小学生・大人の水泳教室の開催		
		②	・学校水泳授業の実施・支援、水泳記録会の開催		
		③	・屋内遊び場の計画的な維持補修及び管理		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績	
	①	②	運動教室参加者数	66人 (前年度実績)	60人
	②	①	水泳教室参加者数	353人 (前年度実績)	376人
成果・評価	①	①	<p>・令和4年度に初めて社会体育としての小学生陸上競技大会を開催して以来、これまでの運営に対する意見を踏まえ、校長、PTA、地域団体から構成する実行委員会を組織し、大会を実施した。参加実績は71.8%と目標に満たなかったが、大会前に各小学校に対する出前講座を実施し、好評を博した。</p> <p>・中学校部活動の地域移行に向け、指導者人材バンク登録の募集を実施し、外部指導者として3名（バドミントン部、ソフトテニス部、吹奏楽部）を配置した。</p>		
		②	<p>・保健師によるインボディ測定と健康相談等を行いながら、有酸素運動と筋力トレーニングを基本とした運動教室を開催し、年間を通じて運動機会を提供することができた。</p>		
		③	<p>・ミズノ株式会社のノウハウを活用し、親子運動教室（令和7年2月5日、19日、3月5日、19日）及びボール遊び推進事業（令和7年3月23日）を開催し、子供たちが楽しく遊びながら運動習慣を身につける機会を提供した。</p>		

成果・評価	<p>② ① ・各年代ごとの水泳教室を開催し、プールに親しみながらの泳力向上に努めた。特に幼稚園児の水慣れ教室（土曜日）は毎回定員に達し、プールに対する関心度の高さが伺えた。</p> <hr/> <p>② ② ・6月～9月において、学校水泳授業を開催し、教員のサポートとして水泳インストラクターや監視員を配置しながら安全に行うことができた。また、学校ごとの水泳記録会も開催し、子どもたちの泳力向上につなげることができた。</p> <hr/> <p>③ ③ 屋内遊び場遊具について点検を実施した結果、仕切りの経年劣化による転倒の危険性が発覚したため更新を行った。</p>
改善・充実策	<p>① ① ・運営に携わった方々から反省点や意見を聴取し、次年度大会へ活かす。子どもたちの体力向上のため、参加は強制ではないものの、全員が自主的に参加できるよう、開催時期、運営の方法、競技種目等を必要に応じて検討する。</p> <p>・休日の中学校部活動の地域移行に向け、継続して人材の募集に取り組んでいく。その際、県や近隣市町とも連携して進めていく。</p> <hr/> <p>② ② ・引き続き「こおり健康学会」（担当：健康福祉課）と連携を図りながら、町民の体力向上につなげられるよう継続して開催していく。</p> <hr/> <p>③ ③ ・より親子で参加していただけるよう、醸芳幼稚園と連携した開催について検討する。</p> <hr/> <p>② ① ・屋内温水プールの活用促進を図るためにも、習熟度で分けたコースの追加や、既存の水泳教室とは異なるプールを活用した運動教室等(大人向けのアクアビクスなど)を検討する必要がある。</p> <hr/> <p>② ② ・限られた時間の中で子どもたちの泳力向上につなげられるよう、継続して支援していく必要がある。</p> <hr/> <p>③ ③ ・親子で楽しむ場を安定的に供給するため、引き続き計画的な維持修繕を実施していく必要がある。</p>
担当者自己評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
社会教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）

第三者評価
委員評価

A 大変良い (目標を上回って達成した)

2 社会体育・生涯スポーツの推進

重点施策	(2) スポーツ団体等の支援			
	① 各種スポーツ団体への活動支援			
重点項目と評価	①	① 総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」への支援	a	
		② スポーツ協会への支援	a	
具体的な取組	①	① ・総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」への補助金交付などによる活動支援		
		② ・スポーツ協会への補助金交付などによる活動支援		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 「マルベリーこおり」各種プログラム参加者数	4,374人 (前年度実績)	5,429人
		② スポーツテスト参加者数	未開催	84人
成果・評価	①	① ・マルベリーこおりへ補助金を交付しながら運営の支援を行った。各種運動プログラムを実施し、年間で5,000名を超える参加者があった。また、毎月1回のプログラム部会に参加し、運営上の連携を随時図った。		
		② ・スポーツ協会へ補助金を交付しながら運営の支援を行った。昨年に続きスポーツフェスティバル(加盟団体ごと)を開催したほか、11月に健康楽会事業(こおりヘルスアップデー)とあわせてスポーツテストを実施し、町民の体力測定の実施機会を提供することができた。また、事務局として参画し、運営上の支援を行った。		
改善・充実策	①	① ・継続した町民スポーツの機会を提供できるよう、事業の面で当該 ② 団体と連携を強化するとともに、自主的活動を支援していく必要がある。		
担当者自己評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		
教育委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		
社会教育委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		
第三者評価 委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		

2 社会体育・生涯スポーツの推進

重点施策	(3) 体育施設等の充実 ① 体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討 ② 経年劣化に伴う計画的な維持補修			
重点項目 と評価	①	体育施設の利用環境の向上と効果的な利活用	b	
	②	体育施設の計画的な維持補修及び管理	a	
具体的な取組	①	・体育施設の使用料等の検討		
	②	・体育施設の計画的な維持補修及び管理		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	体育施設の利用者数	50,963人 (前年度実績)	57,213人
成果・評価	①	<p>・使用料等について、近隣自治体の動向調査を実施し、改正案の作成に向けた検討を行った。</p> <p>・運動教室、水泳教室の積極的な開催により、利用者が約5,000人の増となった。</p>		
	②	<p>・イコーゼ温水プールにおいて、ボイラー、ポンプモーター、監視カメラが突発的に故障し、適宜修繕を実施した。ボイラーの故障については、予期せぬ修繕のために一時営業停止（約2か月）することとなったが、影響を長期化せず、速やかに対応できた。</p>		
改善・充実策	①	<p>・施設の使用料については、現状をよく見極め、効率的、効果的に利用してもらえよう、町外利用者の対応も含め受益者負担について検討していく必要がある。</p>		
	②	<p>・施設の経年劣化による修繕等については、現状を見極めて優先順位をつけ、町民の運動機会を確保できるよう、計画的に予算化していく必要がある。</p>		
担当者自己評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
教育委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
社会教育委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)

3 歴史まちづくりの推進

重点施策	(1) 歴史的風致維持向上計画の推進 ① 歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進 ② 歴史案内人育成と体制の充実 ③ ふるさと教育の推進			
重点項目 と評価	①	① 歴史的風致維持向上計画の推進	b	
		② 文化財及び歴史的遺産の保存と活用	b	
	②	歴史案内人育成と活用	b	
	③	ふるさと教育の推進	a	
具体的な取組	①	① ・桑折町歴史的風致向上計画推進協議会の開催		
		② ・桑折宿デジタル絵図の作成		
	②	・歴史案内人勉強会の開催と歴史案内人活動展開		
	③	・小学校総合学習での郷土学習実施及びこども歴史案内人育成		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	② 歴史資料のデジタル化	1件	1件
	②	歴史案内人講座勉強会開催数	4回	4回
	③	こども歴史案内人育成講座開催数	3回	3回
成果・評価	①	① ・歴史的風致維持向上計画推進協議会を開催し、令和7年度の計画期間終了について、外部委員から意見をいただき、計画を進めた。		
		② ・「明治7年桑折村絵図」をデジタル化し、現代の地図と重ねて閲覧できる「桑折宿デジタル絵図」を作成し、運用に入った。（国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用）		
	②	・歴史案内人勉強会をふるさと歴史講座と合同開催することにより、歴史案内人の登録者が増えた。		
	③	・小学校6年生を対象に郷土学習を行った。また、こども歴史案内人を募集し、5人が「半田銀山シンポジウム」で成果を発表した。		
改善・充実策	①	① ・歴史的風致維持向上計画は、令和7年度で完了し、2期には移行しないが、今後において、本計画の目的や趣旨を尊重し、今日まで町民において醸成された歴史まちづくりに対する気運や、事業成果を踏まえ、引き続き歴史的風致の維持向上を図っていく。		
		② ・「桑折宿デジタル絵図」を歴史散歩や歴史案内人の資料、郷土学習の教材として活用する。		

改善・充実策	②	・案内人勉強会と歴史講座を合同で行うことを継続し、新たな案内人の発掘に努める。
	③	・郷土学習を行った小学6年生を対象にこども歴史案内人講座を開催し、10月の「伊達氏の城シンポジウム」で発表する。
担当者自己評価	B	良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）
文化財保護審議委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）
第三者評価委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）

3 歴史まちづくりの推進

重点施策	(2) 文化財の保護・活用の推進 ① 歴史と文化を活かした魅力体感事業の展開			
重点項目と評価	①	① 半田銀山の歴史を活用した事業の展開	a	
		② 史跡桑折西山城跡の維持管理	a	
具体的な取組	① ① ・半田銀山シンポジウムの開催 ② ・桑折西山城を守る会との協働による草刈等史跡の維持管理			
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 半田銀山シンポジウムの来場者数	600人	900人
		② 桑折西山城を守る会主催による草刈ボランティアの回数	2回	2回
成果・評価	① ① ・「半田銀山シンポジウム」を開催し、スタディツアー、シンポジウム合わせて約900人が参加し、本町にゆかりのある漫画家の講演などを通じて、半田銀山の歴史と魅力を発信することができた。 ② ・桑折西山城を守る会による草刈ボランティアや、会員による有償ボランティアを実施するなどして、協働で草刈等史跡の美化を保つことができた。			
改善・充実策	① ① ・半田銀山や桑折西山城跡など、「歴史遺産」を活かした事業を展開する。 ② ・引き続き、桑折西山城を守る会、文化財保存会などと連携し、文化財の保存と活用を図る。			
担当者自己評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		
教育委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		
文化財保護審議委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		
第三者評価委員評価	A	大変良い (目標を上回って達成した)		

3 歴史まちづくりの推進

重点施策	(3) 旧伊達郡役所の復旧と役割の見直し ① 旧伊達郡役所保存と活用の推進 ② 旧種徳美術館の解体と収蔵美術品及び歴史・考古資料の保存・活用の推進			
重点項目と評価	①	旧伊達郡役所保存と活用の推進	a	
	②	旧種徳美術館収蔵美術品及び歴史・考古資料の保存・活用のあり方検討	b	
具体的な取組	①	・旧伊達郡役所の保存と活用		
	②	・桑折町種徳美術館建物の解体		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	旧伊達郡役所の来館者数	9,508人 (前年度実績) ※イベント開催による増加を含む。	4,000人
	②	美術館建物の解体	1棟	1棟
	②	美術品の移転	1式	1式
成果・評価	①	文化財建造物の保存はもとより、半田銀山シンポジウムと連携した企画展やワークショップなどの事業により、入館者数が目標を上回ることができた。		
	②	廃止となった桑折町種徳美術館建物の解体工事を完了した。		
	②	桑折町種徳美術館収蔵美術品を、解体に先立ち町役場桑島分庁舎の旧法務局書庫に一時移転し、適切に保管した。なお、県指定重要文化財美術品を含む特に貴重な4点については、県立美術館に寄託している。		
改善・充実策	①	旧伊達郡役所企画展、活用事業を通じて文化財の保存と活用を図る。また、現在進めている(仮称)歴史観光交流センターの建設に合わせて、今後の旧伊達郡役所の保存活用について、計画を立てる必要がある。		
	②	旧伊達郡役所の企画展や、イコーゼ等での移動展、オンラインでの公開を行い、美術品、歴史資料等の保存と活用を図る必要がある。		
担当者自己評価	B	良 い (目標の通り達成した)		
教育委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)		
文化財保護審議委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)		

第三者評価
委員評価

B 良 い (目標の通り達成した)

第3 教育委員会の校長に委任する事務の管理 及び執行状況

学校名 桑折町立醸芳小学校

職氏名 校長 花輪 忠康

令和6年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

教育目標「よく考えて学ぶ子ども・親切で思いやりのある子ども・健康で明るい子ども」の育成を目指し、「こつこつ とことん あきらめない」を合言葉として、教育活動を推進する。

- (1) 教職員が一体となり、潤いのある生き生きとした魅力ある学びの場を構成し、知・徳・体の調和の取れた心身ともに、健全で心豊かでたくましい児童の育成を目指す。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の実施により、学校、家庭、地域の連携・強化を図り、地域と共に子どもたちを育む体制を確立する。
- (3) 学校評価、人事評価、学校評議員制度を教育活動の改善に活かし、よりよい学校づくりに努める。

2 学校経営総合評価

- (1) 教育目標「よく考えて学ぶ子ども・親切で思いやりのある子ども・健康で明るい子ども」の育成を目指し、「こつこつ とことん あきらめない」を合言葉として、教育活動に取り組んできた。

その成果は、学習態度、学校行事への取組など児童の姿に着実に現れてきているが、児童の人間関係形成力において課題が見られた。

次年度は「親切で思いやりのある子どもの育成」(徳)に焦点を当て、子どもの自己肯定感を高める学級経営、子どもと教師の信頼関係づくりを重点目標に据えて取り組んでいきたい。

- (2) 「学力に責任をもつ」ことを共通認識とし、1人1授業研究と互見授業を実施した。また、講師招聘による全体研修会(6月:ICT活用授業研究会、11月:全体授業研究会)を開催し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、日々の授業の充実や指導方法の改善に努めることができた。

また、「確かな学力」の基礎となる取組として、読み・書き・計算の「徹底反復の時間」、「家読」運動への取組、主体的な家庭学習の習慣化など、組織的に着実に取り組んできた。その結果、徹底反復のチェックテスト結果も向上させることができた。

- (3) いじめ・不登校問題については、本人、保護者に寄り添いながら、「先生への手紙」などアンケート調査をもとに実態把握に努めた。いじめの早期発見・早期対応の大切さを忘れず、些細なことでも情報共有することに努めてきた。また、未然防止の観点から教育相談の時間を確保し、緊急のケース会を開いて対応策を講じてきた。担任の心身の負担を考慮し、校長や教頭も指導に当たるなど、分散の個別指導に当たってきた。不登校児童は1人(転校生)いるが、SSWの連携協力を得ながら、家庭と学校のつなぎ役に努めてきた。

- (4) 保護者、地域から応援、信頼される「安心・安全な学校づくり」のため、町教育委員会と連携を図りながら、危機意識を持って取り組んだ。また、毎朝の立哨指導、授業における地域人材の積極的な活用とともに、情報発信(学校便り月2回発行、ホームページ更新)により、学校の教育活動への理解と協力連携を深め、信頼感へとつなげてきた。

また、今年度も花いっぱい環境づくりに力を入れ、「花いっぱいコンクール」奨励賞を受賞した。醸芳小学校の伝統として、今後も継続していく。

- (5) 不祥事根絶のため、「風通しのよい職場づくり」「同僚性を高める職場づくり」こそ不祥事根絶の最善策であるという認識に立ち、教職員とのコミュニケーションを大切に、「報告・連絡・相談」体制を整えてきた。

また、当事者意識を高めるために校内服務倫理委員会の定期的な開催、「信頼される学校づくりを職場の力で」の活用、不祥事案の資料の配付等を着実にやることで、不祥事防止に対する当事者意識も高めてきた。しかし、教職員交通事故も続いたことから、都度、臨時の職員打合せを開催し、事故対応マニュアルをもとに、具体的対応について指導した。

- (6) 体力の向上では、外部講師を活用し、水泳や陸上、ラグビーの指導を行うとともに、外遊びの奨励、はやぶさタイム(業間運動)の実施、なわ跳び記録会の開催等により、体力・運動能力の向上に努めた。健康教育では、栄養士による食育指導や給食指導、薬剤師による薬物乱用防止教室、学校歯科医による齲歯予防講話など、外部人材を活用しながら健康指導を行った。

- (7) 次年度の教育課程編成に向け、学校課題改善委員会を機能させて、通知票の2回発行、日課表の改正、学校行事の見直し、器楽部指導の負担軽減、留守電対応、鼓笛隊のあり方などに取り組んできた。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 学校経営

項目	主な実践事項	評価達成状況
重点事項	1 学校経営・運営ビジョンの共通認識と具現化 2 保護者、地域から応援、信頼される学校づくり	B B
実践事項	1 教職員、児童、保護者へ教育活動の意識化 ○ 学校経営・運営ビジョンを明確に示し、教職員でしっかりと共通認識を図る。醸芳小の合言葉「こつこつ とことん あきらめない」が、日常的に児童の姿としてあらわれるように、年間を通して着実な実践をする。	B
	2 児童、保護者、地域への積極的な関わり、信頼関係づくりの強化 ○ 毎朝の立哨指導、通学班の安全指導、桑折学習塾への協力、各種団体の会合への参加、授業における地域人材の積極的な活用とともに、ホームページ（毎日更新）や学校便り（月2回）等で、児童の活躍を積極的に発信していく。	A
課題等	○ 学校経営の根本精神は、平成25年度から受け継がれている「こつこつ とことんあきらめない」という合言葉である。これは、「継続、徹底、根気」を表しているもので、「継続して取り組んでいくこと、できるまで取り組んでいくこと、根気強く取り組んでいくこと」である。児童に対しては、学校行事等があるごとに、この言葉を用いて繰り返し話をしてきた。この精神は、教職員にも当てはまり、様々な課題に対して、あきらめずに根気強く対処してほしいことを話している。 ○ 今年度は、いじめ・不登校問題が課題であった。いじめの早期発見・早期対応の大切さを忘れず、些細なことでも情報共有することに努めてきた。「先生への手紙」のアンケート調査をもとに実態把握に努めるとともに、未然防止の観点から教育相談の時間を確保し、緊急のケース会を開いて対応策を講じてきた。担任の心身の負担を考慮し、校長や教頭も指導に当たるなど、分散の個別指導に当たってきた。 ○ 朝の立哨指導については、児童が4方向から登校してくるため、校長が毎日4地点の横断歩道に立ち、安全指導及びあいさつ指導を行った。安全指導については、交通安全協会の方々にもご協力をいただいた。社会福祉協議会と連携を図り、地域ごとに見守りを強化していただくように依頼した。 ○ 授業における人材活用については、桑折町ならではの地域学習を総合の時間を中心に行っている。りんご王林開発者、桑折町商工会、社会福祉協議会、生涯学習係などを講師に迎え学習を行った。また、老人クラブ、読み聞かせボランティアを活用した活動も行っており、授業だけでなく、クラブ活動や課外活動（器楽部）などでも地域人材を積極的に活用することができた。地域人材以外にも出前講座、学校歯科医・薬剤師、管理栄養士の指導もいただいた。 ○ 学校だよりは隔週、ホームページ更新は毎日行い、児童の活躍する姿を積極的に地域・保護者に発信した。また、緊急連絡メールを活用し、学校からのお知らせに活用したり、休日等に保護者からの連絡に活用したりできた。	

(2) 学校教育管理

項目	主な実践事項	評価達成状況
重点事項	1 現職教育授業研究会を活かした授業改善・充実 2 人間関係形成力、あいさつ力の育成を図った心の教育の充実 3 体力向上と健康教育の充実	A B B
実践事項	1 現職教育授業研究会を生かした授業改善・充実 ○ 講師招聘による授業研究、互見授業の活発化、管理職による日常的な授業観察により、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの指導助言をする。6月の「ICT活用授業研究会」、11月の「全体授業研究会」では、福島大学の平中宏典先生、県北教育事務所の本多英弥先生の指導助言をいただいた。今後もタブレットや電子黒板などのICTを積極的に活用した授業改善を推進していきたい。	A

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み、書き、計算の「徹底反復」の徹底、「家読」の取組、家庭学習の習慣化により、学習の基盤づくりと学びの意欲付けが図られるようにする。 	B
	<p>2 「人間関係形成力」や「あいさつ力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 望ましい学級集団づくりのために「先生への手紙」「QUテスト」より、児童一人一人の内面を多面的に捉え、道徳科・学級活動の時間を核とした学級経営の充実を図る。迅速、丁寧、誠実な対応により、不安や悩みの解消、問題行動の未然防止に努める。児童会活動とタイアップし「あいさつ運動」等を通して意欲付けを図る。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な支援を必要とする児童、問題行動のある児童、不登校児の対応については、リーダーシップを発揮し、積極的なケース会議を進め、町教委やSC、SSW、関係機関との連携・協力を図りながら、児童の特性に応じた学習環境が整えられるようにする。 	B
	<p>3 体力向上と健康教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動身体づくりプログラムの継続、外遊びの奨励、スポーツ委員会によるスポーツ集会、はやぶさタイムの充実、体育専門の外部講師の活用により、運動の楽しさを実感させる。 	B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の改善・充実については、「主体的、対話的で深い学び」の授業づくり、タブレットなどICTの効果的な活用を目指し、一人1授業研究を行った。校長も全ての授業研究会・事後研に参加し、指導助言を行った。授業のねらいを達成するために、教材のどこに着目させ、深い学びを築くか、教材分析の仕方を指導した。6月の「ICT活用授業研究会」、11月の「全体授業研究会」では、指導案の検討において、ICTを活用する必要性を明らかにすることを踏まえ、模擬授業を行って授業構想を練り直すことができた。 ○ 町の取組である「徹底反復」については、学級ごとの取組の差を解消し、一定の成果を上げられるように取り組んできた。さらに、短時間に集中して読み・書き・算が取り組めるよう、教師の指示を簡潔にする必要がある。定期的に行われるチェックテストでも成績の伸びが見られている。「家読」の取組は家庭の協力も必要となる部分もあり、今後も継続して呼びかけていく。 ○ 「学級経営が学校経営の基盤となる」ことの共通理解を図り、年3回の「先生への手紙」、教育相談により児童の悩みや困り感に早期対応したり、QUテストの結果を分析して学級集団の特徴、支援が必要な児童を把握しながら、学級経営に活かすことができた。 ○ 児童会運営委員会による「あいさつ運動」が進められたが、校内と校外で状況が変わる様子が見られる。しかし、下校時、横断歩道で停まってくれた運転手に頭を下げる行為は、伝統として伝わっており、地域からも称賛をいただいた。 ○ 不登校児童については、保護者との懇談をもとに対応してきた。担任だけでは連携できない保護者の対応は、教頭とSSWで進めてきた。欠席はしないが定期的に遅刻してくる児童が数名いる。学校とのつながりが維持できていることを認め、家庭と学校の連携・協力を大切にしていきたい。 ○ 体力向上については、業間時に行う「はやぶさタイム」や記録会の時期に合わせて、持久走やなわとびに取り組ませた。また、福島大学トラッククラブ指導による陸上教室、福島ユナイテッドFCによる指導、聖光学院協力によるラグビー教室など、外部講師を活用した指導の機会も多く設定することができた。 ○ 健康教育の推進については、管理栄養士による食育指導、学校歯科医や薬剤師による齲歯予防、薬物乱用防止の指導を行った。また、学校保健委員会を開催し、学校、学校医、保護者を交えて、健康的な生活について話し合う機会を設けた。 	

(3) 人事管理（教職員の指導・管理）

項目	主な実践事項	評価達成状況
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育公務員としての不祥事根絶 2 教職員の専門性や資質能力の向上、心身の健康管理と職務遂行 	B B
実践事項	<ul style="list-style-type: none"> 1 感度を高め、共有化を図る危機管理意識の徹底 ○ 校内服務倫理委員会の効果的な実施、外部による客観的な意見を取り入れた会の運営により、当事者意識、同僚性の醸成が図られるようにする。教職員とのコミュニケーションを大切にし、管理職に相 	B

	<p>談しやすい風通しのよい職場作りに努め、「報・連・相」を確立する。</p> <p>2 教職員一人一人の日々の取組の評価と継続的な指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員一人一人とのコミュニケーション、日頃の授業観察の機会を多くし、教職員の日々の取組、強みやよさを認め、励まし、資質能力を高める。 	A
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不祥事根絶については、毎月職員会議後にサービス倫理委員会を開催し、不祥事の例を自分事と捉え、倫理観を高めるように運営をしてきた。今年度は、教職員の交通事故が2件発生したことから、都度、臨時の職員打合せを開催し、事故対応マニュアルをもとに具体的対応について指導した。 ○ 些細なことでも「報告、連絡、相談」できるように、職員間のコミュニケーションを活発化させ、担当が一人で抱え込まないようにした。教職員からの情報は全て教頭に集められ、校長に伝えられるシステムができています。教頭や教務主任を中心に教職員との連絡調整がうまく進められた。 ○ 教職員の資質・向上については、教員研修「Plant」を活用し、期首・期末面談にて個々の研修について指導助言を行った。人事面談では、教職員の実践のよさを積極的に称賛し、実践意欲の向上に努めた。今年度も新規採用者が配置されたため、学級経営や教科指導の悩みに周囲が積極的に関わり、みんなで高めようとする雰囲気が高まった。 	

(4) その他

項目	主な実践事項	評価達成状況
重点事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 感染拡大予防と危機管理意識の徹底 2 地域と連携を図った教育活動の推進 3 働き方改革の推進 	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>
実践事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 感染拡大予防と危機管理意識の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症に関する通知など情報を共有し、また県内等の感染状況を教職員、児童、保護者に伝え、危機意識を高め、マンネリ化せず組織的、継続的に取り組んでいく。 ○ 学警連や町内の生徒指導の情報をもとに、積極的な安全指導に努める。安全な登下校については、PTAや交通安全協会、警察等関係機関と一体となった体制づくりをする。 	B
	<ol style="list-style-type: none"> 2 地域と連携を図った教育活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折町の歴史や産業などについて、外部講師の招聘や現地の見学等を通して学ぶことにより、桑折地域のよさに気づかせていく。 	B
	<ol style="list-style-type: none"> 3 働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の学校経営を振り返り、学校課題改善委員会を機能させ、教師の多忙化の解消に努める。 	A
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症の情報を常に入手し、教職員内で共有しながら対応にあたった。今年度はインフルエンザが猛威を振ったが、学級閉鎖はなかった。 ○ 地域から、危険な遊び方についての情報が時折入ってきた。その都度、個人及び学級での指導を行った。保護者には、登校しながら、買い物をしながらなど「ながら見守り」の実践をお願いした。今年度も交通事故が発生しなかったため、今後も気を付けていきたい。 ○ 今年度は旧伊達郡役所140周年誕生祭があり、それに関わり「こども歴史案内人」として6年生5名が参加した。桑折町には、よさを学ぶ素晴らしい教材が豊富で、協力してくださる地域人材も多い。このよさを活かしながら、今後も桑折町のよさを学ぶ学習を積極的に行っていきたい。 ○ 次年度の教育課程編成に向け、通知票の2回発行、日課表の改正、学校行事の見直し、器楽部指導の負担軽減、留守電対応、鼓笛隊のあり方などに取り組んできた。 	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

【校長学校経営評価】

令和7年3月1日

学校名 桑折町立睦合小学校
職氏名 校長 齋藤 貴恵

令和6年度 学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

- (1) 安全・安心、信頼される学校づくりの推進
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着とともに、その活用を図る学習活動の推進
- (3) 学習指導要領を踏まえた指導の充実
- (4) 人権意識を高め「いじめ見逃し0の学校」をめざす
- (5) 健やかな心身を育てる健康教育の推進
- (6) 読書指導の充実
- (7) 少人数の良さを活かした学習指導・生徒指導
- (8) 指導力を培う校内研究・研修充実

2 学校経営総合評価

- (1) 「学び合い 睦み合い 元気でねばり強い むつみっ子の育成」の教育目標と児童像の具現に向け、教職員が一丸となり教育活動を進めてきた。方針第一にある「安全・安心、そして信頼される学校であること」は、家庭や地域の信頼があってこそ豊かな教育活動が成り立つ。そのことを全職員で常に確認し、開かれた学校を目指し、学校のホームページや学校だよりで学校の様子を紹介する等情報発信に努めてきた。特にホームページについては、毎日更新し、日々の教育活動をリアルタイムで発信してきた。また、緊急のお知らせについては、一斉メール送信を、学校経営に係る内容については、学校だよりや通知文書を活用し啓発してきた。そのため、保護者や地域からの苦情はほとんど無かった。

コロナ感染症が第5類に移行したが、再度の流行やインフルエンザ等別の感染症の流行があった。そのため、児童の健康状況の把握や家庭との連携、マスク着用、教室の換気などを再指導し、児童の感染防止の徹底に努めた。そのため全児童出席が1000日を上回った。複式学級増設や教員の働き方改革を見据え、学校行事等の再構築に努めてきた。

今年度は、創立150周年目にあたり、年間を通じて、記念運動会、記念誌作成、記念式典挙行、記念学習発表会と記念事業を推進してきた。地域全体が力を合わせ、アルミ缶やスチール缶の収益を基に、少ない予算で手作り感あふれる慎ましい式典等を実施できた。保護者も、実行委員会の中心になり、率先して運営し、連携強化に努められた。

- (2) 学力向上に関しては、町の方針と事業、現職教育の相互関連を密にして取り組むことができた。全学級が同一歩調で研究主題に沿って実践を進め、成果を共有し授業力向上への意識が向上した。

「徹底反復学習」については、従来の音読、100マス計算、漢字の他にデジタル教材を活用した英単語学習にも取り組ませた。さらに管理職が参観することで、学校全体で取組みが一本化し、チェックテストの数値に大きな成果が見られ、基礎的・基本的学力定着、集中力向上へ繋げることができた。

現職テーマに本年度は、～個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり～をサブタイトルとして付け加えた。最近の流行を示す言葉としてではなく、複式教育の完成を目指す本校にとっては、間接指導時の「学習リーダー」を育成し、一人一人の学びを仲間と交流させ、集団自体の学びの機能を上げていく必要があり、まさに「個別最適な学びと協働的な学びの実現」が合致するからである。本年度は、「学習リーダー育成の手引き」を作成したり、間接指導の様々な形を試行したりしながら、教師と子どもの複式授業を軌道に乗せることができた。

(3) 「いじめ見逃し0」を目指し、いじめアンケート調査や日常観察を重視し、少人数の良さを活かした生徒指導を徹底してきた。トラブル等が発生した場合には担任だけに任せず生徒指導主事を中心に「ケース会議」や「複数での教育相談」を実施する等組織的に迅速な対応を重視してきた。また、伊達支援学校、児童相談所、SSW、町健康推進課、医療等の関係機関との連携により、保護者の子育ても孤立しないよう相談・支援を強化してきた。今後も小規模校のよさを活かして、「全校生を全職員で見守る」体制を継続させていく。

(4) 体力向上の「遊具がんばり」の取組みは、本校の伝統の一つであり、休み時間、授業、運動会等と関連付けて、一輪車、竹馬、雲梯等の遊具、器具を使い、系統的に体力向上を図ってきた。運動会、持久走記録会、なわとび記録会を全校生で実施し、児童が自らめあてをもって運動に取り組むことができた。運動に対する高い興味関心を維持させた。本年度、福島県「ふくしまっ子体力向上マネジメントプラン事業」で優秀賞をいただくことができた。

また、本校の健康課題は、肥満児童の高出現率と野菜の低摂取率である。肥満解消には、「すこやか教室」を実施した。児童自らが自分の身体の状態へ目を向けるようになった。

野菜の摂取率向上には、養護教諭を中心に、町健康保健課と連携し、「ベジチェック」を実施した。どちらも、自分の健康課題を「見える化」することで、児童の意識啓発に繋がった。本取組みについては、今後も効果を検証しながら工夫して取り組んでいきたい。

3 学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

(1) 学校経営

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① 職員の「学校経営・運営ビジョン」への共通理解と参画意識をもった実践	A
	② 保護者・地域との連携強化	A
実践事項	① ア 「経営方針・ビジョン」「県や町の施策」の具現化への取組	A
	イ カリキュラムマネジメントを意識し、より高い学びの姿を求め、地域・人との出会いや、特色ある教育活動の実践	A
	・ 夢の木、地域人材活用・歴史（半田銀山）等	
	・ 複式指導体制の構築	
	ウ 人事評価面談を活用し個々が課題解決意欲を高める働きかけ	A
・ 短・中・長期目標設定と組織としての機能の向上		
・ 管理職の的確な見取りと相談体制の充実		
② 150周年事業を核に保護者や地域との連携強化	A	
・ 150周年事業の挙行	A	
・ 学校だよりとHP、学校メールによる速やかな情報提供	A	
課題等	複式指導について、校内研修、校内指導体制の整備を順次実施し、指導の充実が図れた。今後は、令和8年度の完全複式化への対応が必要になる。	

(2) 学校教育の管理

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① 学力向上に向けた授業改善	A
	② いじめ見逃し0の学校の実現	A
	・ 組織的相談体制の充実と早期対応	
	③ 体力向上と健康の保持増進	A
	① 主体的に学ぶ授業の実現	B

実践事項	ア 県や町教育施策の徹底と基礎・基本的内容の定着（「学びタイム」、徹底反復学習、読書タイム等の実施徹底）	A
	イ 個の学びに応じた指導の工夫改善と複式指導の充実	B
	ウ 家庭との連携充実（自学コンテストの実施、ICT機器の活用）	B
	エ 特別支援教育体制の充実	B
	② ア 豊かな体験活動を実践する機会の設定	A
	イ 道徳科を核とした生き方、命の大切さに対する心情を高める取組	B
	ウ 「不登校」「いじめ」等の予防、早期発見と対処 ・ 学校方針理解と組織での確認、家庭への周知 ・ 些細な事も見逃さない対応 ・ 学級ルールや人間関係充実の取組	A
	③ 体力向上に向けた実践	B
	ア 体育科授業の充実	B
	イ 朝、業間運動、一校一実践「遊具がんばりカード」の活用	B
ウ 運動身体づくりプログラムの実施	B	
課題等	<p>徹底反復学習や全国学力調査、ふくしま学力調査、NRTテスト等を活用し、学力向上に努め、成果が得られてきた。特に、児童質問紙分析から、「分からない時は、先生に聞く」という項目が、昨年度の9割から7割に減少し、「分からない時は、辞書等で調べる」という項目が2割増加した。また、複式指導において、「学習リーダーの手引き」を基に、発達段階に応じた学習リーダーへの支援を工夫し、輪番制で授業を進めることができるようになった。以上から「自立的に学ぶ力」の向上が見られた。</p> <p>しかし、低学年にあっては、登校しぶりがあったり、着替えができなかったり、活動の切り替えが難しかったりと、学習に向かう構えを育てるのに時間を要した。徹底反復への参加ができない日々も続くことがあった。次年度は、低学年の適応指導が課題である。</p>	

(3) 人事管理（教職員の指導・監督）

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① 無事故・不祥事絶無の徹底	A
	② 児童理解力向上の研修の実施	B
実践事項	① ア サービス倫理委員会方法・内容を改善する。 ・ 輪番制話題提供と時期を考慮した啓発	B
	イ 多忙化解消に向けた会議・業務の見直し	A
	ウ ノー残業デイ、児童一斉下校日の設定	A
	・ 日課表変更、校内諸表簿改善、立哨指導廃止等の実施	A
	② ア 調査結果分析と対応を確実に行う。計画的な研修により、児童理解力や学級経営力の向上を図る。	A
	イ 管理職が自ら研修姿勢を示し、外部機関と連携し、研修内容の充実を図る。	A
課題等	<p>上記働き方改革が功を奏し、時間外勤務時間が、複式体制であっても前年度比2割減になり、100時間超の職員は皆無であった。</p> <p>しかし、令和8年度完全複式化に向けて、なお一層の業務の削減等を図る必要がある。</p>	

(4)その他

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 地域へ貢献する教育活動を展開する。 ・ 地域学習、運動会、150周年記念式典・学習発表会、記念誌作成等	A
	② 感染症拡大防止への対応	A
実践事項	① 地域の人や歴史に触れる教育活動を充実する。 ・ 児童や保護者に地域とともにあることを実感できるようにする。	A
	② 学校・家庭・地域が連携し、感染拡大防止に取り組む。 ・ 全児童出席日数100日以上を達成	A
課題等	<p>150周年記念事業の実行により、地域・保護者と連携した活動が、年間を通じて行え、地域貢献することができた。</p> <p>学校評価の項目で、「児童はふるさと感じる活動を行っているか」という項目が低かった。実際に活動はしているが、保護者への情報発信が少なかったと考えられる。ホームページ更新の方法を、工夫し情報を発信していきたい。</p>	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

令和7年3月19日

学校名 桑折町立半田醸芳小学校

職氏名 校長 丹野 潔

令和6年度 学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

本校の学校経営の基本理念は、歴史と伝統を誇る半田醸芳小学校の根底に脈々と流れる「醸芳」の精神や、「半田銀山」にまつわる勤労意欲、不屈の精神、人間尊重の教育を基調として、「半田プライド」を胸に、ふるさとを愛し、高い志と強い意志をもち、地域とともに学ぶ「半田っ子」の育成としている。そのために、以下のことを推進する。

- (1) 「すべては児童のため」を基本においた学校経営
- (2) 「チーム半田」による質の高い教育活動の創造
- (3) 教育目標達成のための3本の柱（知・徳・体）を軸とした確かな教育実践
- (4) 学習指導要領を基に、教師一人一人の専門性と指導力の向上を図る研修の充実と、校務分掌上の組織を積極的に生かした学校経営
- (5) 生徒指導の機能を生かした教育活動の展開
- (6) 「半田ならではの」伝統ある地域の教育力を生かし、学校・家庭・地域が一体となった教育実践により、開かれた学校づくりを推進
- (7) 児童が安心・安全に生活できる学校環境・学級経営
- (8) 県北教育事務所、桑折町教育委員会の重点目標に基づいた教育の実現

2 学校経営総合評価

- (1) 学校経営・運営ビジョンの具現に向け、職員会議等において、学校運営の方針や校長の考えを継続的に示し、教育目標の達成及び学校課題の解決に向けて一丸となって取り組んできた。

本校の特色ある教育活動の一つは、「ふるさと学」とする地域学習である。地域の高い教育力（人材）と豊かな地域教材（もの・こと）を活用し、「半田ならではの」教育活動を展開した。学校畑での「さつまいも栽培」（1～2年）、「半田銀山祇園ばやし」（3～4年）、ホテル学習及び学校田での米作り（5年）、半田銀山や西山城を中心とした歴史学習（6年）など、密度の濃い学習を行うことができ、ふるさと半田を愛する心の育成に努めることができた。学校評価でも高い肯定的評価をいただいている。

今年度の現職教育（授業研究）は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくり、その中でも、これまで実践を積み重ねてきた児童の思考を揺さぶる課題設定の工夫や自己の高まりを実感し、次時へつなげるまとめ（適用や応用・振り返り）に焦点をあて、一人一研究授業を実施した。事後研究会では、町教育委員会指導主事の助言をもとに、成果と課題を共有しながら授業力の向上を図り、各種調査の結果でも成果をあげることができた。

- (2) 生徒指導に関しては、「児童に寄り添う指導」「よさを認め、称賛し、価値付ける指導」の共通理解のもと、「親和的で規律ある学級集団づくり」を充実させることができた。また、日常的な観察や生活アンケート、Q U検査、それらと関連させた教育相談により児童の実態を的確に把握しながら、未然防止と問題の早期発見・早期解決を図った。生徒指導協議会や教育支援委員会では、児童に関する情報を教職員間で共通理解を図りながら、「いじめ見逃し0、不登校出現0」「個に応じた特別支援教育」を推進することができた。

現在、不登校児はいない。今後も継続できるよう、保護者としっかり連携するとともに、児童や保護者が抱える課題に応じて、町SCやSSWにつなぎアドバイスを受けながら、個に応じた指導を継続していきたい。通級指導教室に通う児童は3名いるが、通級指導教室担当と担任が常に情報共有を図りながら、また保護者との面談を通してよりよい指導を目指している。通常の授業では、特別教育支援員が授業に入り、教育的配慮が必要な児童に対し、適切な支援を行っている。

- (3) 教職員人事評価及び研修履歴を活用した対話による受講奨励制度を活用し、教職員が教育目標の実現及び自己目標の達成に向けて、主体的に努力できるよう、面談の際には、ステージに合わせて具体的に指導助言を行った。また、毎日の教室訪問を実施し、「よさを認め励ます言葉かけ」を継続的に行った。

教職員の不祥事については、不祥事を自分事としてとらえることができるように、課題ごとに担当を決め、課題に対して具体的な実践事例やチェックシート等を提案する型の服務倫理委員会、昨今の事案をもとにした「服務倫理だより」の発行等を実施した。今年度も外部人材（警察署員）の参加も実現した。次年度も教職員一人一人の倫理観と危機意識を高め、不祥事を自分事として捉えることができるよう働きかけを工夫しながら、不祥事の根絶を徹底していく。

(4) 来年度の学校経営・運営ビジョンの策定にあたり、今年度の教育活動を振り返り、本校の強みと弱みを整理・確認した。学力的にも平均以上であり、また、素直で心優しく、言われれば誠実に頑張れる子どもたちであるが、粘り強くやり通す力が弱いこと、現状に満足してしまうこと、さらによりよい解決方法を工夫すること等が昨年度に引き続き課題として挙げられた。また、自信がなく、中学校進学後、学力面・体力面でも伸び悩みが見られることなどから、来年度は、「主体性」「向上心」「粘り強さ」「創意工夫」に加え、「自己肯定感」を高めるスローガンを設定し、今年度の活動を「継続」「深化」させることができるよう、教職員・児童と課題を共有しながら重点的に取り組んでいくこととした。

教職員については、「半田プライド」「チーム半田」の名の下に一致団結し、目指す方向を同じくして取り組める雰囲気と信頼関係がある。これは、半田醸芳小学校の伝統でもあるので、今後も大事にしながら学校経営を進めていきたい。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 学校経営全般について

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 学校経営の基本理念である「半田プライド」を共有し、全教育活動を通じての実践を推進する。 2 「桑折町の15歳の目指す姿」に向けた取組のさらなる充実 3 地域や保護者から信頼される学校運営と連携を密にした教育活動の推進	B
実践事項	① 職員会議等において、「学校経営・運営ビジョン」への理解を深め、具体的な取組を推進するとともに成果と課題等を共有し改善を図る。	B
	② 児童に対し、集会等において「半田プライド」や今年度の学校スローガンについて継続的に説明する。	B
	③ 集中反復・家読・体力向上「一学級一実践」等の町全体で取り組む活動において、見取りと評価(数値・姿)を確実に実施し、さらなる内容の充実を図る。	B
	④ HP(毎日更新)や学校だより(月2回)を活用し、学校の取組や児童の活動の様子を随時発信し、活動の目的・目標等を共有した上で教育活動を進める。	A
	⑤ PTA・評議員・民生委員・学校医等、関係機関との情報共有を密にし、連携を図りながら教育活動を進める。	A
課題等	① 教育目標の実現を図るべく、これまで学校経営の基本理念として受け継がれてきた「半田プライド」と前年度の実態を踏まえた学校スローガンを、教職員・児童・保護者とその思いを共有しながらさらに教育活動を進めていきたい。 ② 児童には、集会等において目標に向かって最後まであきらめない気持ちを伝えてきたため、児童はもちろん、教職員にも意識化が図られてきた。夢や希望をもち、自己肯定感を高め、目標に向かって粘り強く取り組む態度をさらに養っていきたい。 ③ 学力向上・学習の基盤づくりである「読み・書き・計算の集中反復」、体力向上のための「一学級一実践」について、数値などで変容が分かるようにすることで、子供たち一人一人の取り組みの状況を捉え、個に応じた指導を行っていきたい。 ④ HPの毎日の更新、月二回の「学校だより」の発行などを通して、情報発信に努めてきた。 ⑤ PTAや学校評議員会、民生委員懇談会等を通して、学校の取り組みを説明し、ご意見等を頂いてきた。それを職員会議等で共通理解を図り、課題を解決するための取組をさらに推進していきたい。	

(2) 学校教育の管理について

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 確かな学力の定着と、「思考力・判断力・表現力」の向上、振り返りの時間の充実、特別支援教育の充実 2 道徳教育・よさを生かし、互いを認め合う集団活動の充実による豊かな人間性の育成 3 教科体育の充実と運動の日常化による体力の向上及び保健健康指導の充実による健やかな心身の育成	B
実践事項	① 適切な見取りと個に応じた指導の充実を図るとともに、読み書き計算の集中反復により個々の学力向上を図る。	B
	② 目的を明確にした話し合い活動の工夫やふくしまの「授業スタンダード」による探究型学習の充実を図る。	B

	③ 考えを共有し、思考を深めるICT機器の活用を図る。	A
	④ 児童の思考を揺さぶる課題設定の工夫や自己の高まりを実感し、次時へつなげるまとめ（適用や応用・振り返り）に焦点をあてて授業研究を行い、検証する。	B
	⑤ SCやSSW、医療機関の協力を得ながら、保護者と連携して、児童理解に基づいた指導の手立てを講じていく。	A
	⑥ 考え、議論する道徳科授業の実践と体験的・問題解決的な活動における道徳的実践の充実を図る。	B
	⑦ 自己肯定感を高め、よさを伸ばすため、一人一人が自己存在感を感じることができる働きかけを工夫する。	B
	⑧ いじめ見逃し0や不登校の未然防止を行うため、日常的なコミュニケーションや各種アンケート調査による見取りを行うとともに、家庭や関係機関との連携を図る。	A
	⑨ 運動身体づくりプログラムの自校化、朝や業間運動の設定と可視化・称賛及び体力の実態に応じた指導計画を推進することにより、年間を通して継続的に体力向上を図る。	B
	⑩ 基本的生活習慣の確立・食育・肥満・メディア対応等、学校課題に応じた保健健康指導を推進する。	A
課題等	<p>① 全国学力調査、ふくしま学力調査、NRT学力検査等の結果を分析し、学級や個の実態に応じた指導の充実を図ってきた。個別指導も繰り返し、少人数のよさをいかしたきめ細やかな指導を進めていきたい。</p> <p>② 現職教育を中心とした授業実践により、目的を明確にした話し合い活動の工夫やふくしまの「授業スタンダード」による探究型学習の充実を今後も図っていきたい。</p> <p>③ ICT指導員と連携しながら、考えを共有し、思考を深めるICT機器の活用を図っていきたい。</p> <p>④ 児童の思考を揺さぶる課題設定の工夫や自己の高まりを実感し、次時へつなげるまとめ（適用や応用・振り返り）に焦点をあてて授業研究を行い、検証を積み重ねてきた。一人一人が自分の考えをしっかりと持って話し合い活動に臨むことが課題として見られたので、引き続き研究を継続していきたい。</p> <p>⑤ SCやSSW、医療機関の協力を得ながら、保護者と連携して、児童理解に基づいた指導の手立てを講じたことで、適切な就学指導を行うことができた。</p> <p>⑥ 「個性の伸長」「希望と勇気・努力と強い意志」について重点化を図ってきたことで、各学年の道徳科授業の充実が図られた。</p> <p>⑦ 教師と子どもたちの温かな人間関係に基づく、「児童に寄り添った指導」「よさを認め・称賛し・価値付ける指導」を推進することにより、子どもたち一人一人の自己肯定感を高めることができるよう働きかけてきた。</p> <p>⑧ 「いじめ見逃し0」「新たな不登校0」を継続することができた。「いじめは、いつでも・どこでも・誰にでもあり得る」という危機意識をもち、これらの取り組みを今後も継続していきたい。</p> <p>⑨ 十分な運動量の確保と体力の実態に応じた指導計画による体育授業を核として取り組んだり、朝の時間に「マラソン」と「なわ跳び」に継続的に取り組んだりしてきた。体力テストの結果、柔軟性に課題が見られる。高学年は全身持久力に課題が見られる。取り組み方にも二極化が見られるので、さらに前向きな意欲を持続しながら運動に取り組める工夫を継続していきたい。</p> <p>⑩ 生活チェックで「夜8時以降はノーメディア」が守られていない児童については、個別指導を行った結果、改善傾向が見られた。肥満傾向の児童には、個別相談を行い、改善が見られた。</p>	

(3) 教職員の指導・監督について

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	<p>1 個に応じた助言による教職員の心身の健康管理と勤労意欲の向上</p> <p>2 人事評価制度や研修履歴に基づいた受講奨励制度の効果的活用による教職員の専門的な資質・能力の向上</p> <p>3 服務倫理委員会のさらなる充実と働き方改革の推進による教職員不祥事の絶無</p>	A

実践事項	① 職務の遂行状況の確認や教職員との日常的なコミュニケーション等を通して健康状態を把握するとともに、個や状況に応じた助言・言葉かけを工夫する。	B
	② 人事評価面談時に研修履歴を活用した対話による受講奨励を行うとともに、個に応じた目標を設定させる。また、日頃の教室訪問で気付いたことを伝える。	B
	③ 外部講師の招聘や担当者による取組の提案等、服務倫理委員会の充実を図り、不祥事の絶無を継続する。また、校長による「便り」を発行し、継続的に注意喚起を促す。	A
	④ 留守番電話や諸表簿・行事・日課表のスリム化や見直し等を行い、教員が児童と向き合う時間を確保する。	A
課題等	① 各自の体調や既往歴、「時間外勤務一覧」等の内容を踏まえ、個別の声かけを工夫することで、教職員の健康管理及び勤労意欲の向上に配慮してきた。日常的なコミュニケーションを通じて、健康状態を把握し、異変を感じた場合は積極的な休養を勧めたり、教頭と連携し、指導体制を見直したりなどして対応していきたい。	
	② 期首面談や中間面談の機会に、教職員の目標達成のために具体的な助言を行ったり、管理職からの期待を伝えたりすることができた。教室訪問後の声かけを通して、職員が自らの指導方法を振り返り、改善できるよう努めていきたい。	
	③ 服務倫理委員会においては、交通事故防止に対して警察署の方を講師に開催することができた。また、「服務倫理だより」は、新聞記事を紹介しながら不祥事を自分事と捉えて受け止めるよう注意喚起を促すことができた。今後も「不祥事0」を継続していきたい。	
	④ コンクールの参加・諸表簿・行事などの精選・日課表の見直しなど多くの改革を行った。今後も教職員が子どもと向き合う時間がしっかりと確保できるよう、さらに働き方改革を推進していきたい。	

(4) その他について

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 学校事故の未然防止と感染症対策の継続指導 2 地域に関われた学校づくりに努め、特色ある教育活動を推進する。	A
実践事項	① 「安全指導にやりすぎなし」を徹底し、時期や学校の実態に応じた指導を継続し、子どもたちの安心・安全を確保する。 ② 施設等の日常的な点検を確実にを行うとともに、各種訓練等の事前・事後指導を充実させる。 ③ 地域の「人・もの・こと」を効果的に活用した「ふるさと学」のさらなる推進と充実を図る。また、活動の様子を情報発信し、協力・連携体制を整える。	A
課題等	① 時期や学校の実態に応じた指導を継続し、子どもの安心・安全を確保してきた。今後も家庭と連携しながら継続していきたい。 ② 施設等の日常的な点検を確実にを行うとともに、改善の必要な箇所については、すぐに教育委員会に報告し、対応した。4年生の親子学年行事で「避難所設営体験」を半田地区自治振興協議会の方を講師に実施した。次年度も継続し、各種訓練等の事前・事後指導と併せて、自分の命を守る学習を大切にしていきたい。 ③ 「半田ならではの」地域学習である「ふるさと学」を多くの方々の協力を得ながら、計画通りに実施することができた。今年度は、「半田銀山シンポジウム」のオープニングセレモニーに参加する機会があり、本校の取組（半田祇園囃子の伝統継承）を広くアピールすることができた。今後も学校の取組を積極的に発信し、地域の方々の協力・連携体制を強固なものにしていきたい。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A (4) :十分に目標を達成している。

B (3) :おおむね、目標を達成している。

C (2) :やや目標の達成には至っていない。

D (1) :目標を達成していない。

学校名 桑折町立伊達崎小学校
職氏名 校長 青柳俊宏

令和6年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針（教育目標及び重点事項）

本校の教育目標「よく考え、本気で学習する子ども・明るく元気にやりとげる子ども・心豊かな礼儀正しい子ども」の実現のため、教育計画に基づき、学校行事や日々の教育活動を充実させながら、教職員一丸となって教育活動を推進する。

(1) よく考え、本気で学習する子ども

- ① 読み・書き・計算の徹底反復により、基礎学力の定着を図る。
- ② 授業研究を充実させ、授業力の向上を図る。
- ③ 自主学習ノートの指導を通して、家庭学習の習慣化と自己マネジメントの向上を図る。

(2) 心豊かな礼儀正しい子ども

- ① 地域の方々との交流や地域素材を生かした多様な体験活動を充実させる。
- ② 読書の時間を週3回位置付け、家庭と協力して読書活動を活性化させる。
- ③ 心あるあいさつと返事の指導などを通して、時と場に応じた行動を身に付けさせる。

(3) 明るく元気にやりとげる子ども

- ① マラソンやなわとびを奨励し、運動の日常化を推進する。
- ② 感染症予防の対策を徹底し、児童と保護者の意識を高める。
- ③ 早寝・早起き・朝ごはん、など、健全な生活習慣を身に付けさせる。

(4) 保護者・地域に開かれた学校

- ① HP、学年だより等で学校の見える化を図り、保護・地域との協力体制を構築する。
- ② PTA会員数に応じてPTA活動の安定した運営をする。

2 学校経営総合評価

- (1) 基礎学力向上、集中力の向上のために「読み・書き・計算」徹底反復学習について、すべての学年で取り組んできた。授業研究を全学級で行い、授業実践の後は教員間で率直に意見を交換し、よりよい授業づくりに向けて互いに切磋琢磨できた。今年度は、徹底反復の陰山英男先生をお招きした授業研究会も行うことができ、日常の授業の充実のために、「まとめ」と「ふりかえり」に焦点をあて、子どもが自分の学習成果を自分で感じられるよう研修を深めてきた。

タブレットの活用では、授業のまとめや発表だけでなくデジタルドリルなどにも取り組んでおり、多くの問題に挑戦できるようにした。

読書の習慣化については、週3回を読書タイムとして取り組んでいる。23日の家読の日には、保護者の方々へメールを配信し、子どもと一しょに読書に親しめるように、協力を呼びかけた。

- (2) 心の教育をより充実させるために、学校教育全体を通して道徳教育に取り組んでいる。特別の教科「道徳」では話し合いを通して、多様な価値を理解し授業の充実を図り、豊かな心を育んできた。また、いじめについては、アンケート調査や日常観察により未然防止に努め、「いじめ見逃しゼロ」を掲げている。いじめを積極的に認定することで、子どもへの関わりもより丁寧になった。
- (3) 健康増進・体力向上のため、運動の日常化を図ってきた。4月から11月の期間は「あぶくまマラソン」と呼ばれる学年に応じた時間、自分のペースで校庭を走るマラソンや、

なわとびも全校体制で取り組んだ。このような運動の日常化の結果、「ふくしまっ子体力向上優秀校」を福島県教育委員会より受賞することができた。

健全な生活習慣を確かめる「学びの習慣チェックシート」や日常の観察などの実態把握から、「早寝早起き朝ごはん」については、ほとんどの子どもがしっかり睡眠をとり、朝ごはんを食べている。しかし、朝ごはんを抜いたり、深夜まで起きていたりする子どももいるため、保護者への協力依頼をしながら個別の指導を続けている。

感染症対策について、自主的に感染対策ができるよう指導をし、手指消毒の奨励と換気の徹底をした。

(4) 学校の見える化のために、学級通信・学校便りを発行した。さらに、子どもたちの様子をより詳しく知らせるホームページを毎日更新できた。

家庭数の減少が予想されるため、PTA活動については、組織と事業内容のスリム化を図り、負担感の少ないPTA活動を進めている。また、地域の方々のご協力をいただき、資源回収を行うことができた。

(5) 「伊達崎小学校からは不祥事を絶対に出さない・不祥事根絶」の意識を高くもち、毎回、不祥事防止チェックシートに取り組み、意見を述べ合ってきた。職員間でのセーフティネットづくりを日々心がけ、不祥事ゼロを全職員で進めている。「風通しの良い職場」をめざし、教職員が安定的に職務を遂行できるようにした。

3 学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

(1) 学校経営

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 教育目標を具現化するために、組織的な学校運営を行う。 2 桑折町教育委員会や各学校、保護者、関係機関等と連携して教育活動を進めるため、連絡・相談を緊密に行う。	A B
実践事項	○ 校務運営委員会を中心とし、研修、生徒指導等必要に応じて関係職員と協議し、参画意識を高めて職務遂行につなぐ。 ○ 「めざす子ども像」を基盤にし、時期に応じて教育活動の重点を明確にする。 ○ 教育課程の実施、授業改善、不登校傾向児対応、学習・生活習慣の確立について、町教育委員会の指導の下、PTAや各小学校と連携し推進する。	A B B
課題等	全教職員で、共通理解を図りながら教育活動を進めてきたが、重点事項を常に意識することが難しかった。各教員が、それぞれの得意教科で積極的に研修を深めることができたので、今後は、全ての教科で研修成果を生かしていく。生活習慣については、特に就寝時間が遅い子どもの増加が課題である。保護者へ学力との相関関係や危険性を伝えて、協力を呼びかけている。	

(2) 学校教育の管理

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 学力向上 (1) 基礎学力向上及び集中力の向上を図る。 (2) 自ら考え、ともに学びを深める子どもの育成を目指して、個別最適化・協働的・探究的な学びを意識して授業を改善する。 2 心の教育	B B

	<p>(1) 読書の習慣化を図り、豊かな情操を養う。</p> <p>(2) 縦割り班活動や地域人材・資源を活用した体験活動により、社会性や郷土愛を培う。</p> <p>(3) 規範意識を高め、時と場に応じた行動を身に付けさせる。</p> <p>3 健康の増進・体力向上</p> <p>(1) 運動の日常化を図る。</p> <p>(2) 健全な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>(3) 感染症対策する。</p> <p>4 特別支援教育の充実</p> <p>(1) 個々の児童の特性に応じて、社会的適応を図るための手立てを工夫し、学力の向上を図る。</p>	<p>A</p> <p>B</p>
実践事項	<p>○ 個人内評価を重視した読み・書き・計算徹底反復学習により個々の基礎学力向上を図る。</p> <p>○ 今年度は、まとめと振り返りに焦点をあて、全員で授業研究を行い検証する。</p> <p>○ タブレットの活用方法の研修を深め、一人一人の学びを保障した学び合いを推進する。</p> <p>○ 図書室の環境を整えるとともに、読書タイム（週3回）と家読を積極的に推進する。</p> <p>○ 登校や清掃における縦割り班活動を推進するとともに、町教委等の関係機関と連携して地域人材を活用して多様な体験活動を行う。</p> <p>○ いじめ見逃し0のため、アンケート及び日常の観察を行う。</p> <p>○ 「あいさつ」と「返事」を意識させる。</p> <p>○ 運動身体づくりプログラムの自校化と「あぶくまマラソン」「なわとび記録会」の充実を図る。</p> <p>○ 「学びの習慣チェックシート」や日常観察等から実態を把握し、全体・個別に指導する。</p> <p>○ 感染症対策ために児童へ指導し、各家庭に協力を呼びかける。</p> <p>○ 諸検査により本人の特性を把握し、医療機関の協力を得ながら、保護者と連携して、個別の指導計画策定を含め、指導の手立てを講じていく。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>
課題等	<p>教員の熱心な指導により、授業におけるまとめと振り返りが定着している。今後は、自己肯定感を高め、自信がもてるようにしていきたいと考えている。また、課題を与えられない、指示されない場合など、主体的に学習や行動ができない児童も多い。そのため、自主学习ノートを生かし、個別に学習の習慣化やマネジメント力を身に付けさせたい。</p> <p>タブレットの活用方法として、授業のまとめや発表だけでなく習熟や発展問題などにも取り組んでいる。今後は、学力調査等にも使用されるため、さらなる活用を図っていく。</p> <p>読書については、学校司書や読み聞かせのボランティアと協力しながら、進んで読書に取り組めるように指導をしていく。「家読」の日に家庭へメールで知らせるなど、協力を呼びかけ、読書環境を充実できるようにしていく。</p>	

(3) 人事管理（教職員の指導・監督）

項目	おもな実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 教職員が安定して職務を遂行できるように、指導助言を行う。	A
	2 研修履歴シートを活用し、各教職員の経験に応じた課題をとらえて、指導助言を行い、教員一人一人の指導力の向上を図る。	B
	3 教職員の不祥事防止に努める。	A
実践事項	○ 教頭、教務、養護教諭と随時、相談・打合せを行い、各教職員の健康、家庭の状況などを踏まえて相談・助言にあたる。	A
	○ 人事評価面談時に研修履歴を活用した対話による研修受講奨励を行うとともに、現職教育の授業研究を核として指導助言を行う。また、日頃の授業参観で気づいたことを伝える。	B
	○ 「不祥事根絶のための行動計画」をもとに、『信頼される学校づくりを職場の力で』の「不祥事防止チェックシート」を毎回活用するとともに、通知文や具体的事例を取り上げ、意見交換を通して、教職員の意識を高め、サービス倫理委員会の充実を図る。	A
課題等	サービス倫理委員会の運営を全教職員で担当し、自分事として不祥事根絶に取り組めるようにしてきた。教職員一人一人の体調不良や家庭内の状況を、常に把握することが難しかった。 毎日、教室訪問や授業参観を行ったが、教員の授業力の向上のための話し合い時間の確保が難しかった。「個別最適な学び」をより充実させるために、具体的な指導助言の時間の確保が課題である。	

(4) その他

項目	おもな実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 学校の見える化により、保護者・地域との協力の円滑化を図る。	A
	2 児童数の減少・実家庭数の減少に応じて、PTA活動を見直す。	A
	3 新たな教育課題についての取組の準備と実践をする。	B
実践事項	○ ホームページの毎日の更新や、学級通信の発行により、学校の指導内容、児童の実態を知らせ、地域・保護者とともに子どもを育てる雰囲気を醸成する。	A
	○ 組織と事業内容のスリム化を図り、負担感の少ないPTA活動を進める。	B
	○ 桑折町SDGs推進パートナーとして、具体的な取組を実践する。	A
課題等	子ども数の減少、実家庭数の減少により、PTA組織・活動の見直しが課題である。また、SDGsについては、プルタブやエコキャップの回収だけでなく、節電節水の取組など子どもが主体的に考え、活動できるようにしなければならない。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね、目標を達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

【校長学校経営評価】

令和7年2月28日
 学校名 桑折町立醸芳中学校
 職氏名 校長 菅野 重徳

令和6年度 学校経営評価報告書

1 学校経営の方針（教育目標及び重点事項）

桑折町においては、義務教育修了時の生徒の姿を「人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子」としている。そして、知、徳、体の観点から具体的な姿を設定している。醸芳中学校においても、この15歳のめざす姿を具現化するために、以下の教育目標とそれに伴った重点事項を設定し意図的、計画的に教育活動を推進してきた。

- (1) 自立 ～ 自ら学び、考え判断、行動し、自分を高める生徒（知）
 - 生徒が互いに高め合う授業をします。 ○学力を定着・向上させます。
 - 読書活動を充実させます。 ○志の教育を系統的計画的に進めます。
- (2) 利他 ～ 思いやりをもち、協力して、他者や社会のためつくす生徒（徳）
 - 規範意識を高め、自主性を育みます。 ○いじめ、不登校に丁寧に対応します。
 - 心の悩みの解決に努めます。 ○地域との交流を深めます。
- (3) 健康 ～ 命を大切にし、心身ともに健康で体力を高める生徒（体）
 - 健やかな体づくりと体力向上を図ります。 ○健全な生活習慣を形成します。
 - 命を守る安全教育を推進します。
- (4) 努力 ～ 何事にも真剣に取り組む生徒（態度）
 - 努力する大切さを感じさせます。 ○見通しをもつ力を培います。
 - 挑戦する心、強い気持ち、感謝する心を育みます。
- (5) 保護者と連携を強化し、協力して生徒の成長を支えます。
 - 保護者参観の充実（授業参観、醸中祭、三者面談等）
 - 学校日より、学年日より、保健日より 等の定期的な発行

2 学校経営総合評価

(1) 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

教職員との面談、相談等を意図的、計画的に実施し、教職員の考えや意見を受け止めたり、各教員の状況それぞれに応じた、身につけるべき資質能力を丁寧に説明したりするなどして教職員との信頼関係を基盤にした学校経営に注力してきた。

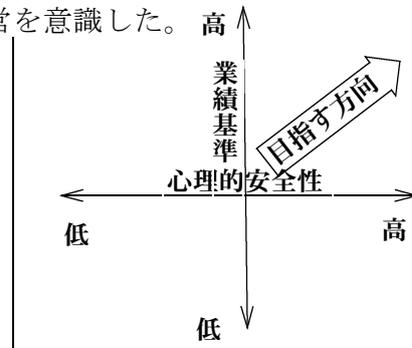
生徒指導、保護者対応においては、面談や家庭訪問を校長自ら行う必要性を早い段階で判断し、躊躇せずに行い問題の深刻化を防いだ。

教職員に対する校長の姿勢としては、サーバントリーダーシップを心がける一方で、状況や場面に応じスピードとガバナンスを意識し指導助言を心がけ、学校経営を進めてきた。

町教委による「桑折町探究型授業」を現職教育に取り入れることで研修の精選・重点化を図ったり、AIドリル導入にあたって業務縮減の側面から教職員の理解を得て推進したりと桑折町教育委員会施策を積極的に取り入れた学校経営を意識した。

(2) 教職員の指導・監督

右の図を示し、心理的安全性とともに業績を上げていく前向きな職場づくりを意識させている。そこで、教職員との対話を積極的に行い、教職員同士の関係や状況把握に努めた。次に、教職員間の人間関係トラブルや心身の不安定な状況を早期に把握し対応にあたりながら、学校運営を推進している。



また、職員会議で心理的安全性を高めるための考え方や留意点を数回にわたって提示し、互いを理解し合う風土醸成に努めた。そして、教職員それぞれの力量や特性を見極めた上で困難な状況に陥る前の支援を進めることを通して教職員の援助希求性を高めることができた。一方で、なれ合いや遠慮などせず相互啓発し、結果を求めていくことを逐次確認している。

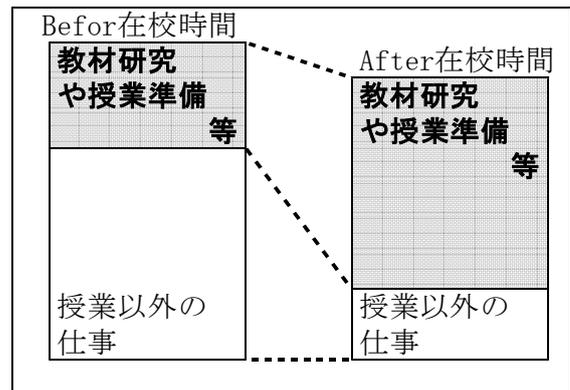
(3) 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

働き方改革に伴って朝の読書時間削減をする一方で、図書室経営の充実を図った。具体的には、町教委の理解と協力を得て、学校司書の勤務時間設定を1時間後ろにスライドし放課後の図書室利用を可能にした。また、学校司書に加えて、県教委サポートティーチャーの配置を実現し、限られた日数ではあったが図書室での個別学習支援を進めた。軌道に乗ってからは、校長をはじめ教職員も個別支援に加わり、自ら学ぶ雰囲気醸成を図ることができた。

部活動において、全員加入から任意加入としたり美術部廃部の道筋をつけたりと、地域展開を見据えた部活動改革を推進した。加えて、町教委施策に沿って部活動外部指導者(3名)を定着させることができた。

(4) 教職員の意識改革

右のイメージ図等を用いて、働き方改革には授業準備確保という側面があることを認識させ教員への授業改善へ向かう意識を高めた。改革の具体的内容としては1日の時程を早めたり通知表の記載内容を見直したりして業務縮減を実行している。登校時刻や部活動終了時刻を踏まえて、季節ごとに電話対応しない時間を決め、留守番電話メッセージ応答のみとした。その上で、働き方改革を進めている成果を示す年度であることを伝え、具体的な内容として以下4点掲げた。



- ①退勤最終時刻を原則20:00とする。(繁忙期を見据え業務平準化を図る。)
- ②日々の授業において、教師が話し続け教え込みに終止する授業から脱却する。
- ③タブレットを効果的に活用した授業を実践する。
- ④学力や体力等、客観的数値の伸びにこだわる。

①は大きく改善した。②、③は不十分であった。④は学年や教科によって差があるが一定の成果を確認できた。

一方、ベテランの教員が多いことを踏まえ、教員、学校、職員室という枠の中で生じやすい「エコチェンバー現象」「フィルターバブル現象」を教職員と共有した。その上で中学校教員の思考や行動の癖、習性に対して自覚的になるとともに、バイアスはずし、思い切って0ベースで、日々の教育活動を見つめ直してみるよう継続的に働きかけながら改革を進めてきている。また、教育活動そのもの(手段)を目的化している傾向があるため、学力や体力、生徒指導の状況といった客観的数値を確認しながら、生徒の学力、体力向上に向けた有効な手段として、教育活動がどうあるべきかを検討、吟味してきている。

加えて、初任者の研修成果発表の場を設定したり、「探究の対話(p4c)」の手法で既成概念をとりはずした仕事観、教育観を相互啓発する場を設定したりして固着した教育観をアップデートしてきている。

※「探究の対話(p4c)」は、話し合いの手法の1つで、来年度からの道徳の教科書にも取り入れられている。今回の実践にあたっては、宮城教育大学上廣倫理アカデミーの実践を参考にした。

3 学校経営課題(今年度の重点)の実施状況

(1) 学校経営

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 学校教育目標「自立」「利他」「健康」「努力」について、教員の意識を高め教育活動の具現化を図る。	B
	2 働き方改革を推進し教員と生徒の活力を生み出し密度の濃い充実した教育活動を展開する。	A
	○教職員の高齢化、メンタルヘルス、様々な疾病さらには家庭の	B

実践事項	事情など、各教員それぞれの異なる状況を踏まえながら組織マネジメントを進め、日々の教育活動が滞ることがないように目配りをし、教育目標具現化に努めてきた。 ○休日を含めた教職員の在校時間を確実に把握し長時間労働改善に向け、業務縮減を図ってきた。年度後半は在校時間が減るとともに密度の濃い勤務への意識が高まった。	A
課題等	学校教育目標を具現化していくにあたって、一町一中学校の強みを十分に生かした学校経営を意識していく必要がある。そのために、学校だけでなく、町教育委員会と緊密に連絡を取り合ったり、保護者や地域との関連の中で内容を吟味、検討したりして、学校教育活動を力強く進めていきたい。 加えて、今後も働き方改革と教育活動充実との両立を図ることを継続発展させ学校経営・運営を進め成果を挙げていきたい。	

(2) 学校教育の管理

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1 桑折町探究型授業を実践し授業改善を図る。 2. 全国学力学習状況調査の結果、福島県学力調査の「学力の伸び」、NRT偏差値の数値変化等、各種調査結果状況を担当教員と共有し、成果、課題、取組を確認する。加えて生徒質問を校長自身が分析し教員へ啓発する。 3. 価値観が多様化、複雑化している社会状況を踏まえた生徒指導、保護者対応を進める。	B B A
実践事項	○「桑折町探究型授業」を校内研修に取り入れ、町教育委員会と連携し、教育事務所要請訪問(6/13)、公開授業研究(10/2)、1人1授業(10月～11月)と進めることにより授業充実、改善に努めてきた。担当者ごとの生徒授業アンケートを2回実施し変容をもとに、管理職とともに各教員が授業内容を振り返る場を設定した。 ○今年度のふくしま学力調査の結果(学力のレベル)から「昨年度からの伸び」がマイナスになっている生徒が見られた。そこで、ふくしま学力調査「学力レベルと学力の伸び」グラフ化ツールを用いて個々の学力の伸びを数値化したものを、三者面談で活用し、学力向上に向けた話し合いをした。また、グラフ化ツールによる箱ひげ図から集団の経年変化を各担当者と共有した。 ○持ち時数の少ない教員(3名)に、数学のTT担当として時数配当をし、個別の指導支援にあたった。特に、数学の初任者には、研修主任がTTで入る設定とし、授業力向上に取り組んだ。 ○SSRに、1日1時間の指導支援をする教員を配当し別室登校生徒の学びの充実を図った。 ○予知予見に基づく生徒指導事前対応、さらに問題発生時の適切な初期対応と管理職の早期把握に努め、問題の深刻化を防ぐことができた。さらに問題事案対応を通して、生徒や保護者との信頼関係を構築するよう心がけている。	A A A A A
課題等	生徒の学力向上に向けた教師の授業改善、生徒の望ましい学習・生活習慣、読書習慣形成に向けて、校内各種委員会等の取り組みを有機的に関連させ、継続して組織的に工夫した実践を積み重ねていく必要がある。	

(3) 人事管理（教職員の指導・監督）

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	1. 教職員の心身の健康状態を把握し、先を見通した早めの対策をとる。 2. 一人一人の教職員の実態を把握し、指導力向上の手立てを講じる。 3. 教職員の不祥事防止へ向けて状況を踏まえた指導をする。 4. 専門スタッフの力を生かした学校経営を進めチーム学校の具現化を図る。	B
		A
		C
		B
実践事項	○休日を含めた教職員の在校時間を確実に把握した上で長時間労働改善へむけた対応を進めている。 ○職員室内での教職員同士の関係やその状況把握に努め、心理的安全性を高めている。 ○「研修履歴」を進めるにあたり、各教員それぞれと対話を重ねて、実効性のある研修出張を設定することができた。その結果、自死予防の実践やC B Tに関する個人研究など研修成果が形となってきている。 ○教職員それぞれの力量、特性を把握し、予知・予見を心がけ校務運営のミスや瑕疵がないよう個別の指導、支援を進めている。 ○S C、S S W、S S S、特別支援教育支援員、学校司書、I C T支援員など、多くの専門スタッフそれぞれが力量を発揮するように教頭との日々の打合せを通して業務管理を行い、マネジメントを進めている。また、各専門スタッフから得た情報を教員への指導助言に生かしている。	A
		A
		A
		B
		B
課題等	各教職員の能力、性格等の特質を踏まえながら必要な指導助言を機会を逃さず進めていくことを今後も念頭におき学校経営にあたる。 不祥事防止の面では、人身加害事故や物損加害事故があった。高齢化を踏まえた交通事故防止をさらに指導強化していく必要がある。 教員と各専門スタッフがより一層有機的に結びつく組織マネジメントに心がけていく必要がある。特に、I C T支援員については、ベテラン教員の授業力向上により深く関わられるような体制を検討する必要がある。	

(4) その他

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	日々の教育活動を見つめ直したり、教育の動向を理解したりする機会を設け、ベテラン教員の教育観をアップデートする。	B
実践事項	○「生徒指導提要」、通知通達、教育法規といった内容と現在の教育課題等との関係について啓発している。また、学校経営の方針との関係を示し、日々の職務の裏付けを確認した。 ○ベテラン教師に対して経験則は、判断の根拠とならないことを事例を踏まえて確認し事故、不祥事防止に努めている。	B
		B
課題等	意識を変えていくための取り組みを根気強く継続していく必要がある。	

【校長自己評価】

令和7年3月12日

学校名 桑折町立醸芳小学校

職氏名 校長 花輪 忠康

令和6年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、教職員人事評価システム制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適應やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	B
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は、学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中及びPTAとの連携に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね、目標の達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

【校長自己評価】

令和7年3月 1日

学校名 桑折町立睦合小学校

職氏名 校長 齋藤 貴恵

令和6年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不応適やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、町学力向上推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	A

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標の達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

【校長自己評価】

令和 7 年 3 月 1 9 日

学校名 桑折町立桑折町立半田醸芳小学校

職氏名 校長 丹野 潔

令和 6 年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるように、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	A

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道德、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A (4)：十分に目標を達成している。

B (3)：おおむね、目標の達成している。

C (2)：やや目標の達成には至っていない。

D (1)：目標を達成していない。

【校長自己評価】

令和7年3月21日

学校名 桑折町立伊達崎小学校
職氏名 校長 青柳 俊宏

令和6年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	B
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね、目標を達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

【校長自己評価】

令和7年2月28日

学校名 桑折町立醸芳中学校

職氏名 校長 菅野 重徳

令和6年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道德、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	A
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする

- A (4) : 十分に目標を達成している。
- B (3) : おおむね、目標を達成している。
- C (2) : やや目標の達成には至っていない。
- D (1) : 目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

第4 教育委員会の園長に委任する事務の管理 及び執行状況

【こども園長園経営評価】

令和7年3月24日

職氏名 園長 吉田 恵

令和6年度 こども園経営評価報告書

1 園経営の方針

- (1) 教育・保育目標の具現化を図り、『心豊かにたくましく生きる子ども』を育成する。
- (2) 感染症の状況に応じた『学びの保障』をする。
- (3) 『安全で安心な幼稚園・保育所づくり』を推進する。

2 園経営総合評価

- (1) 職員一人一人の保育力を高めるために、園・所内研修の充実を図り保育活動に活かすことで、園児に還元することができた。
- (2) 教育・保育計画に基づき、感染症対策をしながら重点事項の実践に努め、成果がみられた。
- (3) 園・所児が安全安心な環境でのびのびと過ごせるように危険個所の早期発見と日常的な安全点検による危険個所の除去を実施した。また病気や怪我への早期対応、感染症の予防対策等、健康管理に努めた。職員一人一人のさらなる危機管理意識の向上がみられた。
引き続き、発達段階に応じて園児自身が危険から身を守る意識の芽生えを育てることが必要である。

3 園経営重点事項の実施状況（幼稚園）

- (1) 環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実を意識した教育活動

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	○ 園内研修や保育研究会を通して保育の質の向上を目指す	B
実践事項	・ 園内研修の充実	B
	・ 幼児自ら主体的に取り組めるような環境の構成と教師のかかわり	B
	・ 子どもの気付きや試行錯誤を大切にしたい考える過程を重視した保育	A
課題等	○ 指導力を高めるための手立てとして、6月に要請訪問、11月に保育研究会を実施し、『主体的保育と環境を通じた教育』についての学びを深めた。子どもたちが興味あることを深め、十分に試すことができるような環境づくり（主体的に遊べる環境づくり）や子どもへのかかわり方において保育に活かすことができた。引き続き、子どもの意欲や主体性が引き出される環境づくりに努める必要がある。 ○ 園内研修では「非認知能力をどう育てるか」というテーマで具体例をあげ、説明をし、職員間の知識の共有化に努めた。今後も「どのような子どもを育てるか」の視点から園としての方向性を共有する研修が必要である。	

(2) 特別支援教育の充実

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	○ 発達特性（見方、考え方、感じ方、関わり方など）理解 ○ 支援体制づくり ○ 教育相談の実施 ○ 個別の支援・指導計画作成と活用	B

実践事項	・ 状況の環境設定・指導の工夫	B
	・ 特別支援コーディネーターを中心とした実効的な支援体制	A
	・ 保護者との連携	A
	・ 関係機関との連携	A
課題等	<p>○ 子どもが示した困り感を捉え、子どもの実態把握で得た情報をもとに、支援方針を園内で話し合っていくとともに家庭や関係機関との連携を密にとり、個々の特性（個性）を活かした指導を行った。</p> <p>○ 保護者支援、担任支援を特別支援コーディネーターが担っており、必要に応じた教育相談の実施、現場での状況を把握と必要に応じた支援を行う等、きめ細やかに対応している。</p> <p>○ 個別の指導計画の活用においては、よりよい支援に繋げるために、支援の経過や結果をもとに、さらに支援方針など見直しPDCA化していくことが必要である。</p>	

(3) 体を動かす遊びの充実

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達状況や興味・関心に基づき、体を動かす遊びへの意欲を誘発する環境作りと教師のかかわりの工夫 ○ 体の基礎をつくり運動機能を発達させる遊びの充実 	A
実践事項	・ 「発達の特性」に応じた遊び 1学年1実践、1学級1実践	A
	・ 楽しく体を動かす「時間」の確保	A
	・ 「多様な動き」とさまざまな遊びの提示	B
	・ 外部講師による幼児への運動遊びの指導	A
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達状況や興味・関心に基づき、体を動かす遊びへの意欲を誘発する環境作りと、自ら進んで取り組みたくなる環境構成の工夫や教師の援助に努めた。 ○ 外部講師による運動遊びを各学年実施できた。 ○ 苦手意識が強く取り組もうとしない幼児へのかかわりが課題である。 	

(4) 絵本の読み聞かせ活動の推進

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	○ 絵本に興味や関心を持てるような場や提示の工夫	A
実践事項	・ 経験や体験、または季節や時期に応じた絵本の提示の工夫	A
	・ 1日1冊絵本を読む時間の確保	A
	・ 絵本の部屋の充実	A
	・ 家庭での読み聞かせの啓発（1日1冊）	B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町からの予算を活用して絵本を精選し絵本の部屋や各クラスの充実に努めた。 ○ 毎週全家庭に幼稚園の絵本を持ち帰るようにしており、読み聞かせをする家庭が増えている。 ○ 楽しんで読み聞かせをしている家庭と全く読まない家庭の差が課題である。保護者に読み聞かせの大切さを知らせる工夫が必要である。 	

(5) 『ことばの教室桑折』の指導体制の充実

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	○ 指導体制の充実	A

実践事項	・ 言語指導の充実	A
	・ 必要な手続き書類や受付方法等の共通理解	A
	・ 必要な教材準備と適切な環境構成	B
	・ 言葉の教室にかかわる職員の業務分担調整	B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導員は言語に関する専門的な知識や指導方法についての研修会等に積極的に参加し指導の質の向上を図ることができた。 ○ 園児の実態やニーズを適切に把握し、個別の指導計画を作成して、障がいの程度や発達の状態に応じた指導を行った。 ○ 的確な教育的診断や指導を行うために、言語療法士と連携し個別に指導・助言を受けたことは指導効果を高めることに繋がった。 ○ 指導員は副園長と養護教諭が兼務している。今年度は副園長が教務主任の業務を担っていたことから、業務分担が過重になることが多かった。 	

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。D(1)：目標を達成していない。

【園長自己評価】

令和 7 年 2 月 2 5 日

桑折町立醸芳幼稚園

職氏名 園長 吉田 恵

令和 6 年度 幼稚園経営自己評価

1 園長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教育目標の具現のため、園経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	A
2	園長は、園経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、その取り組みを評価したか	B
3	園長は、めざす園経営の理念を保護者に具体的に示し、園経営上の課題の解決に当たったか。	B
4	園長は、園児が毎日を楽しみ通園し、教職員が意欲をもって園経営に参画できるよう、「園風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	A
5	園長は、幼稚園教育の理念を深く理解し、園の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して園児の自己実現が図れるよう全力を挙げて園経営に努めたか。	B

2 教育（保育）及び園施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教員（保育士）の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、教育課程（保育）を確実に実施したか。	B
2	園長は、教職員ともども園児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を展開し、園児の遊びの充実に努めたか。	B
3	園長は、園児の健やかな成長に資するため、定期的に園児の健康状態を把握し、事故ある時は教職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	園長は、園生活不適應やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、園児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	園長は、定期的に園内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、園児や教職員及び保護者・地域の園利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	園長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正なサービス監督に努め、園児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	園長は、教職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、園児が教職員を信頼し、楽しく充実した園生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	園長は、園経営に対する苦情や教職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、園児が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	園長は、日頃、教職員が園施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための園の体制を整えるように努めたか。	A
5	園長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	園長は、園児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	園長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて努力したか。	B
3	園長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、園としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	A
4	園長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	園長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、小・中及び家庭との連携推進に努めたか。	B

※ 4-(5)の項目は、保育所において評価対象外

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

【所長自己評価】

令和 7 年 2 月 1 3 日

桑折町醸芳保育所

職氏名 所長 三村 隆二

令和 6 年度 保育所経営自己評価票

1 所長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、保育目標の具現のため、所経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	B
2	所長は、所経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、その取り組みを評価したか	A
3	所長は、めざす所経営の理念を保護者に具体的に示し、所経営上の課題の解決に当たったか。	A
4	所長は、入所児が毎日を楽しく通所し、教職員が意欲をもって所経営に参画できるように、「所風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	A
5	所長は、所保育の理念を深く理解し、所の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して所児の自己実現が図れるよう全力を挙げて所経営に努めたか。	A

2 保育及び所施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、保育士等の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、保育課程を確実に実施したか。	B
2	所長は、職員ともども入所児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を展開し、入所児の遊びの充実に努めたか。	B
3	所長は、入所児の健やかな成長に資するため、定期に入所児の健康状態を把握し、事故ある時は職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	所長は、所生活不適應やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、入所児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	所長は、定期に所内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、入所児や職員及び保護者・地域の所利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、入所児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	所長は、職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、入所児が職員を信頼し、楽しく充実した所生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	所長は、所経営に対する苦情や職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、入所児が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	所長は、日頃、職員が所施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための所の体制を整えるように努めたか。	A
5	所長は、職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、入所児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	所長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて努力したか。	A
3	所長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、所としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	B
4	所長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

※ 記入に当たって、自己評価の内容・形式は同じですので、評価の欄のみ記入となります。

第5 第三者評価委員会による評価

第三者評価委員による評価について

1 会議開催経過と主な内容

日時：令和7年2月18日（火）午後1時15分

場所：桑折町役場 庁議室

内容：令和6年度重点の説明（教育委員会重点、園（所）・学校経営重点説明と取組み状況報告）

日時：令和7年10月20日（月）午後1時30分

場所：桑折町役場 中会議室

内容：第三者評価の実施、評価の結果報告（答申と意見等の報告）

2 評価に対する評価委員からの意見等

【全体的な意見等】

- ・学校教育については、学校教育振興基本計画の第3年次として町全体が目標に向かい、特色のある実践を積み重ね、着実に成果を上げていることは高く評価される。校長、園長先生方、そして各先生方、さらに学校現場を支える教育委員会の方々に改めて敬意を表する。
- ・学校のあり方については、教育委員会方針を決めて、着実に進めてもらいたい。
- ・幼稚園等において、イメージが良い形に変わったので、より上を目指して、よい子を育てていただき、小・中学校をレベルアップしていただきたい。
- ・社会教育、生涯学習の領域については、年々質的にレベルアップが図られていることは一目瞭然であり、担当者の意気込みが感じられた。
- ・文化財関係については、旧伊達郡役所、桑折西山城、半田銀山を目玉に、歴史と文化のまちづくりが着実に進められ、県内ばかりでなく全国的にも知名度が上がっていることは、さすがと思わせるものがあった。
- ・改善点の1点目については、数値を示すことは重要であり、より良い評価検証のために、この数値の提示が、今後とも重要になると思いますので、次年度、可能な部分で結構ですので、数値をお示しいただいて、この協議に臨んでいただきたい。
- ・改善点2点目については、焦点化であり、重要な教育課題である、いじめ、不登校問題、特別支援教育の現状、教職員の働き方改革、部活動の地域移行等について、より踏み込んだ記述をしていただきたい。
- ・改善点3点目については、目的と手段のすみ分けと明確化であり、重点項目の評価だけにとどまらず、その手立て、重点項目は、本当に目標達成に有効なのかどうか、この手立てが、本当に有効なのかどうか振り返っていただき、プラスの点もマイナスの点も、記述をしていただきたい。前年度と同じ記述があらこちらに見られたことについては、やや残念な思いがしている。

【評価項目に対する意見等】

(こども教育係)

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

(1)〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。

・評価をするにあたり、具体例を伴う記述に改善してほしい。

(2)〔体力向上〕子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。

・各種事業について、着実に取組が行われている。

(3)〔心の教育〕子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。

・平和学習派遣について、事業報告書の配布は継続してほしい。

・いじめの認知について、小さいところから見つける取り組みや行き届いた指導は良い取り組みである。

2 一人一人を大切に作る温かい教育

(1)〔特別支援教育〕特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。

・町とすれば、きちっとした手立てをつけて、これに対応しているように感じた。

(2)〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。

・SC(スクールカウンセラー)の活用・相談件数について、目標と実績などを掲載することが出来ないか、要望としてお願いしたい。

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

(1)〔英語教育〕子どもたちに英語の4つの技能(「聞く」「話す」「読む」「書く」)の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。

・具体的な尺度を数値目標・数値実績の1項目に加えていただくと判断しやすいので、要望としてお願いしたい。

(2)〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。

・学校における他小学校との交流や台湾との交流において、ICTを活用した授業展開について、素晴らしいことである。

(3)〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。

- ・班旗の使用方法について、児童に指導をお願いしたい。

4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続

- (1) 〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。

- ・前年度と比較し、質の向上が見られた。

(生涯学習係)

1 生涯学習活動の推進

- (1) 生涯学習の推進

- ・数値実績について、講座数が増えており、工夫がみられることは大変いいことだと思う。

- (3) 青少年育成と社会教育団体の活動奨励

- ・大会等の参加者を集めることについて、大変であるが努力してほしい。

- (4) 心を豊かにする読書活動の充実

- ・ガチャ本企画とか紅白図書合戦など、事業を工夫していることが見受けられた。

- (7) 多世代交流及び多文化交流の推進

- ・地域学校協働活動について、伸び悩んでいるが、何らかの手立てを持って行っていただきたい。

3 歴史まちづくりの推進

- (1) 歴史的風致維持向上計画の推進

- ・桑折宿デジタル絵図の取り組みは、とてもいいことだと感じた。

第 6 参考資料

○桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則

平成23年4月27日教委規則第2号

改正 平成25年1月28日教委規則第4号

平成27年3月27日教委規則第1号

令和3年9月27日教委規則第2号

(設置の目的)

第1条 桑折町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の所管事務に係る管理及び執行状況について地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項に規定する点検及び評価を実施するにあたり、教育施策の改善・充実に向け、同条第2項の規定により外部有識者の知見を活用するため、第三者評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

(所管事務)

第2条 評価委員会は、当該年度における次の各号に掲げる事項について評価し、その結果を教育委員会に報告する。

- (1) 教育委員会関係の管理及び執行状況及び事務局の事務執行に関する自己評価
- (2) 町立小・中学校の学校経営報告及び自己評価
- (3) 町立幼稚園経営報告及び自己評価

(組織)

第3条 評価委員会は、委員3名をもって組織する。

2 委員は、有識者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長等)

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議は委員長が招集し、これを主宰する。

(報告書)

第7条 評価委員会は、当該年度の評価結果を評価報告書にまとめ、翌年度6月までに教育委員会に報告する。

(守秘義務)

第8条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第9条 評価委員会の庶務は、教育委員会教育文化課において処理する。

(委任規定)

第10条 この規則に定めるものの他、評価委員会の運営に関し必要場事項は教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附 則 (平成25年教委規則第4号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成27年教委規則第1号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年教委規則第2号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

桑折町教育大綱

(令和3年9月24日 総合教育会議で決定)

本教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、町長が、町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものである。

本町においては、今回新しい町総合計画を策定したところであり、その内容に基づいて教育大綱を次のように改め、計画期間も総合計画と同様に令和4年度から令和13年度までとする。

1 基本目標

桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」に基づき、町の将来像「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

2 基本方針

- (1) みんなで子育て・教育に携わり、「子育てするなら桑折町」「桑折ならではの質の高い教育」と評価されるような乳幼児保育・教育や学校教育の推進を通して、子育て支援の充実と「桑折町の15歳のめざす姿（人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子）」の実現に努める。 [子どもを大切にすまちづくり]
- (2) 生涯学習・生涯スポーツ事業の推進を通して、みんなが生きがいをもち、心身ともに健康で活き生きと暮らせるまちづくりに貢献する。 [健康長寿で元気なまちづくり]
- (3) 歴史まちづくりの推進を通して、みんなが互いに協力し、町の魅力や元気を発信しながら、交流の輪が広がるまちづくりに貢献する。 [交流で絆を育むまちづくり]

3 施策の体系と主な取組み

(1) 乳幼児保育と教育の充実	
①待機児童ゼロの堅持	◆認定こども園の開設に伴う既存保育所の運営移行 ◆保育士や支援員の確保と施設・設備の充実 ◆支援員の研修や関係者間の情報共有による保育体制の充実
②幼児教育の質の向上と小中学校への接続	◆環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実 ◆認定こども園との連携に基づく幼児教育の実施 ◆研修会・先進園視察実施 ◆自然と触れ合う活動の充実：自然体験・歴史体験・栽培活動の実施 ◆保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施 ◆幼児・児童・生徒の交流活動の実施 ◆特別支援教育の充実：ことばの教室・就学相談会
③家庭への手厚い子育て支援	◆幼稚園給食費全額補助、幼稚園入園祝い品制服贈呈、病児病後児保育利用助成 ◆子育て参考図書配付や家庭教育講演会開催、子育て相談、子育て支援策の情報発信
(2) 学校教育の推進	
①一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育の推進	◆学力向上（脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践、家読奨励、桑折学習塾など） ◆体力向上（「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進、給食を活用した食育、運動身体づくりプログラム、運動継続の1校（園）1実践、地域スポーツとの連携など） ◆心の教育（不登校・いじめ対策、規律・礼節の重視、体験活動・平和学習・キャリア教育の充実、ふるさと教育（西山城見学など）の拡充など）
②新しい時代に必要となる資質・能力の育成	◆英語教育（英語指導助手・指導協力員の活用、英検受験奨励・費用助成、英語体験活動の実施など） ◆情報活用能力の強化（1人1台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習、ICT支援員配置・活用と教職員研修など）

<p>③一人一人を大切にす温かい教育</p> <p>④家庭への手厚い子育て支援</p> <p>⑤教育施設・設備の充実</p> <p>⑥小中学校の在り方の検討</p>	<p>◆各種教育課題への対応（防災・安全教育、持続可能な開発のための教育、感染症対策も含む健康教育など）</p> <p>◆特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用、関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立など）</p> <p>◆不登校対策（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、不登校が起きない学級・学校づくり、教育支援センターによる教育機会確保と学校復帰支援など）</p> <p>◆経済的支援（給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与など）</p> <p>◆家庭教育支援（参考図書配付や家庭教育講演会開催による家庭の教育力向上支援、情報提供や相談体制整備、子育て支援施策についての情報発信の強化など）</p> <p>◆学校教育施設（長期的な維持・管理・整備計画の作成（学校プールの取り扱いも含む））</p> <p>◆給食センター（施設・設備の計画的な維持管理・整備、管理・運営の在り方の検討）</p> <p>◆少子化への対応策の検討（学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析、小学校統合についての様々な観点からの検討など）</p> <p>◆学校運営の改善の検討（働き方改革や学校・地域連携・協働の推進、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入の検討など）</p>
<p>（3）生涯学習の推進</p>	
<p>①生涯学習活動の推進</p> <p>②公民館施設等の管理運営</p> <p>③芸術・文化の振興</p> <p>④多世代交流の推進</p> <p>⑤多文化交流の推進</p>	<p>◆生涯学習に関するニーズの把握 ◆「桑折町生涯学習推進基本計画」の見直し</p> <p>◆ライフステージに応じた多様な学習機会の提供</p> <p>◆主体的に学ぶ機会の推進と場の提供 ◆ICTを活用した学習機会の提供</p> <p>◆地域での施設活用に対する奨励・支援 ◆各施設の計画的な維持補修</p> <p>◆イコーゼ！及びよも～よの適切な管理運営</p> <p>◆公民館等施設の近隣市町村との相互利用検討</p> <p>◆芸術鑑賞会や文化講演会の開催</p> <p>◆町文化団体連絡協議会（町文化祭事業含む）及び加盟団体等の活動奨励・支援</p> <p>◆町民が主体的に活動成果を披露する場の提供</p> <p>◆地域学校協働活動事業 ◆こおり地域クラブの活性化</p> <p>◆ボランティア人材の発掘 ◆地域リーダーの育成 ◆青少年育成事業の充実</p> <p>◆姉妹都市エリザベスタウン市との相互交流</p> <p>◆国際交流を推進する自主的活動への支援</p>
<p>（4）生涯スポーツの推進</p>	
<p>①健康・体力づくりを目指す生涯スポーツの推進</p> <p>②スポーツ団体等の支援</p> <p>③体育施設等の充実</p>	<p>◆各種スポーツイベント、講演会等の開催</p> <p>◆健康・体力づくりのための事業展開</p> <p>◆各種スポーツ団体への活動支援（補助金、奨励費等の交付）</p> <p>◆スポーツ公園（仮称）整備の検討</p> <p>◆体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討</p> <p>◆体育施設の経年劣化に伴う計画的な維持補修</p> <p>◆体育施設の近隣市町村との相互利用の検討</p>
<p>（5）歴史まちづくりの推進</p>	
<p>①歴史的風致維持向上計画の推進</p> <p>②文化財の保護・活用の推進</p> <p>③桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し</p>	<p>◆歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進</p> <p>◆歴史案内人育成と体制の充実</p> <p>◆既存の散策ルートを活用した歴史遺産周遊路の設定</p> <p>◆史跡桑折西山城跡の保存団体を組織し、維持管理や案内を行う体制づくり</p> <p>◆文化財の新規指定と国・県指定への格上げ</p> <p>◆伝統文化の継承に対する支援及び発表の機会の提供</p> <p>◆文化記念館の復旧 ◆文化記念館の歴史探訪・観光拠点機能の充実</p> <p>◆資料や美術品を保管・公開する博物館機能の充実</p>

